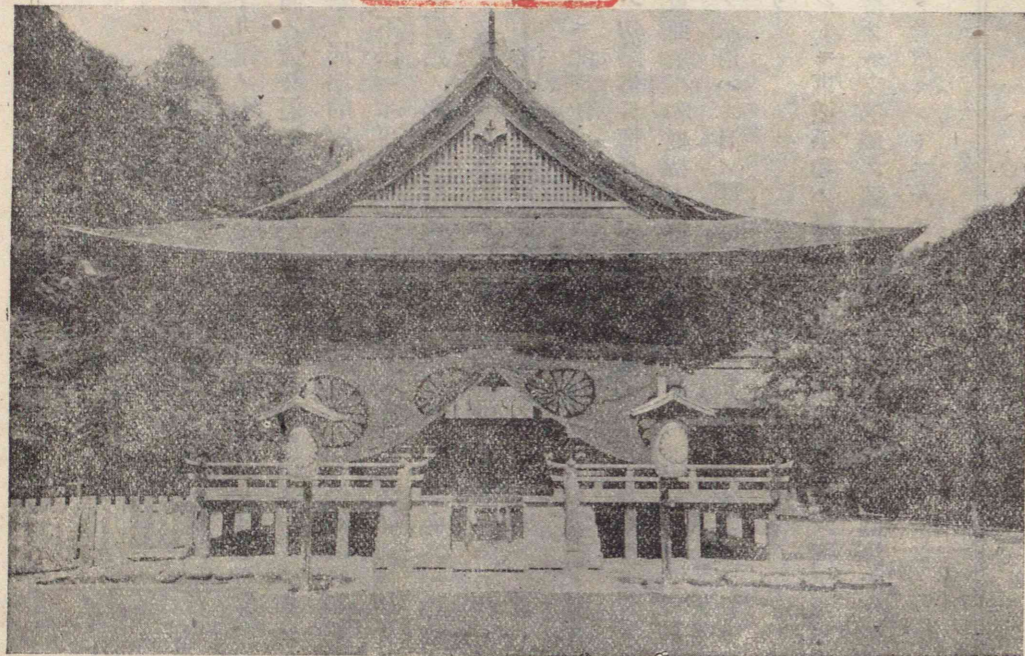


# 武相教育



官幣中社鎌倉宮

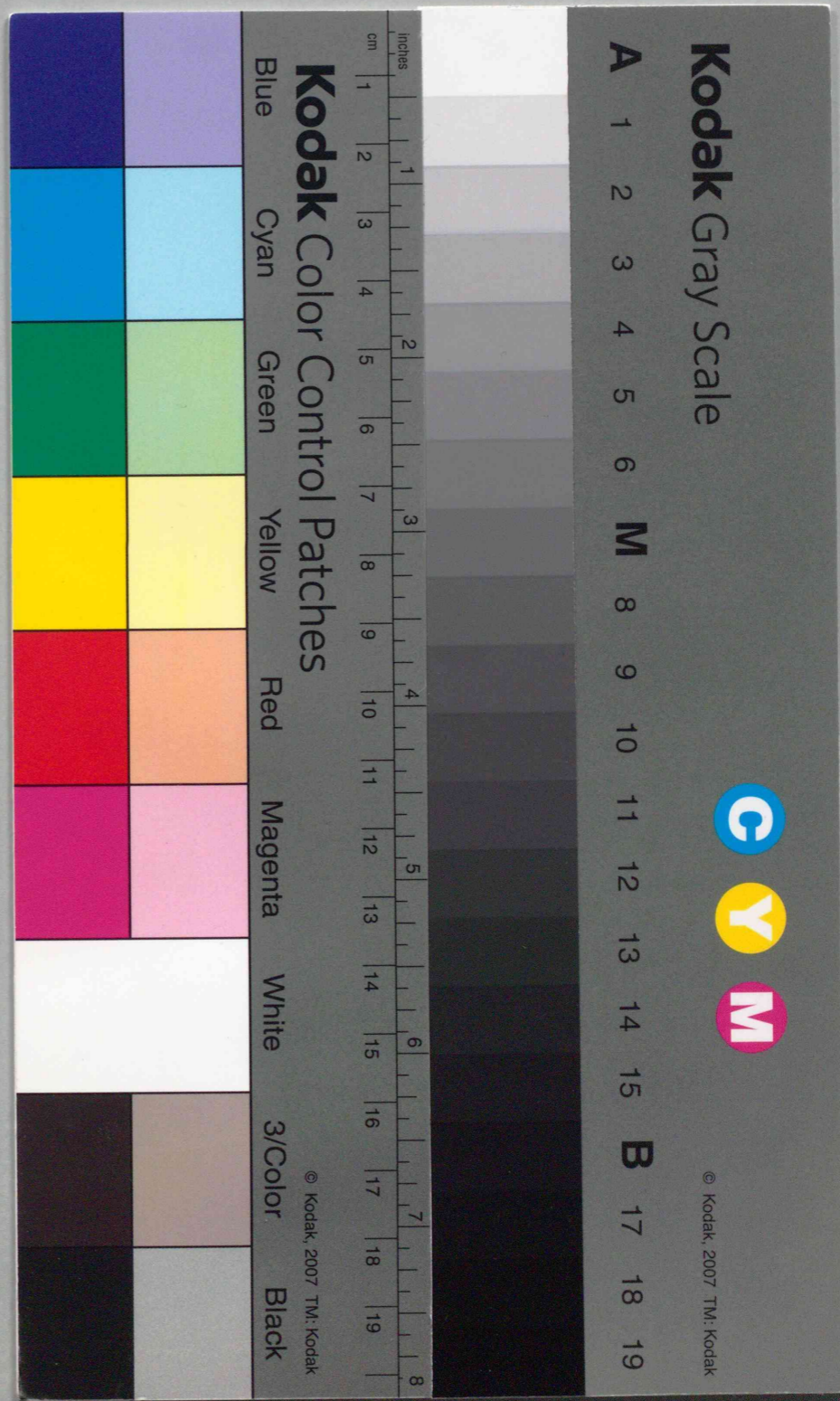
## 目次

北支事變ニ關スル政府聲明書	二
神奈川縣下に於ける明治天皇聖蹟を調査して	三
..... 聖蹟調査委員 磯貝正	三
銚後の護彌々堅し	三
..... 教化團體代表者會議	三
横濱だより	五
..... 雲南生	五
新しき教育の趨勢	七
..... 小林一三氏講演	七
國民融和の徹底を期する國史教案懸賞募集	一二
本會中興の名會長石井錦樹氏を送る	一三
佐藤鎌倉師範學校長津久井視察記を讀みて感あり	一四
..... 齋藤篤太郎	一四
箱根芦湯恩人碑第三回祭典の盛況	一四
研究指定學校	一六
領臺四十年後の臺灣視察	一八
..... 寺内時二	一八
物語體操「金太郎」	二〇
..... 小塚源一郎	二〇
高津郷土誌より	二〇
..... T S 生	二〇
夏休の理科指導について	二二
..... 遠藤政文	二二
兒童を通しての家庭教育	二七
..... 伊東覺念	二七
教員共済會だより	二七
神宮參拜講習會—足柄下郡小學校長會	二九
自由黨當選者發表	三二

神奈川縣教育會

紀元二五九七年 第八十八號

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可  
昭和十二年七月廿八日發行(毎月廿五日發行)



### 北支事變ニ關スル政府聲明書

相踵ク支那側ノ毎日行爲ニ對シ支那駐屯軍ハ穩忍靜觀中ノ處從來我ト提携シテ北支ノ治安ニ任シアリシ第二十九軍ノ七月七日夜半蘆溝橋附近ニ於ケル不法射撃ニ端ヲ發シ該軍ト衝突ノ已ムナキニ至レリ爲ニ平津方面ノ情勢逼迫シ我在留民ハ正ニ危殆ニ瀕スルニ至リシモ我方ハ和平解決ノ望ヲ棄テス事件不擴大ノ方針ニ基キ局地的解決ニ努力シ一旦第二十九軍側ニ於テ和平的解決ヲ承諾シタルニ不拘突如七月十日夜ニ至リ彼ハ不法ニモ更ニ我ヲ攻撃シ再ヒ我軍ニ相當ノ死傷ヲ生スルニ至ラシメ而モ瀕リニ第一線ノ兵力ヲ増加シ更ニ西苑ノ部隊ヲ南進セシメ中央軍ニ出動ヲ命スル等武力的準備ヲ進ムルト共ニ平和的交渉ニ應スルノ誠意ナク遂ニ北平ニ於ケル交渉ヲ全面的ニ拒否スルニ至レリ以上ノ事實ニ鑑ミ今次事件ハ全ク支那側ノ計畫的武力抗日ナルコト最早疑ノ餘地ナシ

思フニ北支治安ノ維持カ帝國及滿洲國ニトリ緊急ノ事タルハ茲ニ贅言ヲ要セサル處ニシテ支那側カ不法行爲ハ勿論排日毎日行爲ニ對スル謝罪ヲ爲シ及今後斯カル行爲ナカラシムル爲ノ適當ナル保障等ヲナスコトハ東亞ノ平和維持上極メテ緊要ナリ

仍テ政府ハ本日ノ閣議ニ於テ重大決意ヲ爲シ北支派兵ニ關シ政府トシテ執ルヘキ所要ノ措置ヲナス事ニ決セリ

然レトモ東亞平和ノ維持ハ帝國ノ常ニ顧念スル所ナルヲ以テ政府ハ今後共局面不擴大ノ爲平和的折衝ノ望ヲ捨テス支那側ノ速ナル反省ニヨリテ事態ノ圓滿ナル解決ヲ希望ス又列國權益ノ保全ニ就テハ固ヨリ十分之ヲ考慮セントスルモノナリ

神奈川縣下に於ける

### 明治天皇聖蹟を調査して

聖蹟調査委員 磯 貝 正

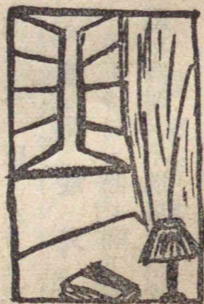
その九

明治天皇が浦賀に行幸遊ばされたのは前後二回に亘らせる。第一回は龍驤艦御試乗の爲明治五年四月二十八日午前三時宮城御發聲、濱離宮より汽船に乘御、品川沖に於いて龍驤艦に御移乗、品川沖を御發艦浦賀に向はせ午後同港に御著艦あらせらる。この夜御上陸なさらず同艦内に御假泊遊ばさる。翌二十九日午前五時浦賀港御發艦、品川沖に御著艦、往路と同じく汽船に御移乗、濱離宮より御上陸、午前十一時四十分宮城へ還幸遊ばされたのである。第二回は明治十四年横須賀行幸の御砌、觀音崎砲臺御巡覽の爲當所に御成り遊ばされたのである。即ち五月十八日午前七時三十分假皇居御出門、八時十分新橋停車場御發車横濱に向はせ給ひ、同十時軍艦巡鯨に召され御發艦、午後一時浦賀港御着艦、御書休所たる西岸小學校に入御遊ばさる。その當時の模様现就いて元町長川島平藏氏の講演筆記に據ると

時は明治十四年五月初旬 天皇陛下觀音崎砲臺行幸との報に接し實に名狀し難い感と忙しさとは一時に來たのでありました。行幸に先立宮内官の數次下檢分があつて御道筋が確定したのであります。御道筋に當る道路の修繕や橋梁の修繕等で随分騒いでものであります。陛下よりは此の土地に少しの費用もかけさせまいといふ有難い大御心から御下賜金壹百圓尙其の上諸入費として二百五十圓五十九錢五厘といふ御金まで賜はりました。尤も只

今からこの金高を見ますと恐れ多いことですが、多額のものとは思はれませんが、當時では現今の五千圓にも六千圓にも相當する大金なのであります。扱て唯今申し上げました通りの有様で其の當時私とは申しますと年齢は二十三歳でありまして今日此の様に頭も白く髭も延び皺も多くなりましたが、この親爺も當時は紅顏の美少年であつたのであります。

浦賀町はと申しますと明治七年築地に海軍屯營所といふものが建てられたのであります。尤も築地と申しますのは以前は一面海でありましたのを天保年間浦賀奉行所によつて埋め立てられたので今日一萬坪の築地と見るやうになつたのであります。そうして明治七年に至つて政府に御買上になり唯今申し上げました海軍屯營所を御建になつたのであります。其の時分此所の港には常に海軍が今の横須賀の様に碇泊して居りました。名はよく覚えて居りませんが其の當時の大きな軍艦であつた東や千代田型富士山などといふ船は皆こゝに永く碇泊して居つて毎日ボート當時のバツテラで沖に出て演習をして居りました。そうしてこの屯營所は明治七年より明治二十三年頃まで海軍屯營所といひ或は提督府と稱して此所に在りましたが、二十三年に現今の横須賀へ海兵團となつて移る様になつたのであります。その後このあとへ今の船渠會社が建つたのであります。扱て愈々陛下行幸となりますと道路は修繕する、港内まで大掃除を施し今の宮下金の島居の前海中には大棧橋をかけ御召艦扶桑(追鯨)より上陸ならせらるゝ御便宜をはかり人民は御出迎へる事



### 銃後の護彌々堅し

教化團體代表者會議

北支の戰雲急を告げ、今や當に支那との全面的戰爭の危機を孕んで來た際、わが國民は上下一致舉國一體となつて國難排除に努力すべき秋である、この國家としての重大なる時局に當り縣下十有五の教化團體代表者は七月廿日午後一時縣廳縣會議事堂に集合し、知事關係部課長其他幹部臨席のもとに協議懇談の上左の決議を行ひ併せて上局に上申し、滿洲及北支の派遣皇軍に慰問電報を送つた。本會を代表して出席せられしは、佐藤師範學校校長、永野厚木中學校長、金子幸ヶ谷小學校長、安藤中川青年學校長の四氏。

#### 決議

- 一、皇國ノ使命ヲ確認シ萬難ヲ排シテ北支出兵ノ目的貫徹眞義宣揚ノ爲奉仕ス
- 二、遙カニ皇軍ノ勞苦ヲ想ヒ出征將兵ノ後顧

にて大混雑を極めました、尤もこの當時は皆天子様をおがめば目がつぶれるとさへいつて非常に有難く思つて居つた矢さき而もその天皇様がこの浦賀の町へ行幸になると思ひもよらぬことに浦賀は勿論近郷近在は鼎の沸くが如き有様で容易ならぬ騒ぎでありました。

愈々十八日となりますと丁度十一時半頃とも思はれる頃陛下には海路御意なく軍艦にてこの港へ御着きになりました。さて御上陸となりますと例の棧橋より御上りになり御座所までは僅の所ですがお馬に召されて兩の轡を御付の方にとらせられ肅々と御進みになる様は實に嚴かに何ともいへない感がいたしました。

陛下は馬を御進めになり丁度學校の前石段の際にて御下馬となり現在の行在所にお入りになりました。

この時浦賀の町より奉迎申し上げましたのは戸長藤波保教を始めとし學校世話役や西岸からの宮井清左衛門、白井儀兵衛、太田又四郎、鈴木甚左衛門、長島長七、増田太兵衛、三六六兵衛、穴澤與十郎、加藤小兵衛、東岸からの岡本彦八、宮井與右衛門、栗生大四郎、栗生利兵衛其他東西兩岸の叶神社氏子總代や社掌など多くの方々にて道路が埋まるばかりの大混雑でありました。そのうち陛下には御中食をお取りになる。尤も御膳は宮内省より御廻しになりしもので決してこの土地のものを御召しになつたのではありません、その御休憩中に浦賀町にて港内に網を引き新鮮な而も發洩として居る大鯛を献上しました。そして大きな器に入れた鯛數尾は宮井清左衛門、三六六兵衛兩君の手によつて二階に運ばれ侍從職にお渡し申し夫より陛下の御前に供へられたのであります。そしてこのお魚は光榮にも横須賀行在所に御送りになり陛下の御嘉納を辱ふしたのであります。

此の際陛下より御手許金五十圓を下賜せられたのであります、此の包紙は現在宮井清左衛門方に保存せられ金子は教育基金神社基本金となりし筈、愈々陛下御普崎に向はせらるゝ時が來ますと騎馬數百名御警護申し上げ

御用馬二頭一つは純白一つは栗鹿毛の駒をうして陛下は馬上豊に馬を進められ新地十五屋(當時の主人小林十五郎)今の杉山善治邸宅の前の屋敷の真直に新地橋を渡り中堀を経て海軍屯營所の中を通りになり巖橋より東岸宮井與右衛門氏の前を御通過夫より顯正寺、乘正寺の間を御通過相成つて幅員九尺に満たざる海山坂道を御通りになりて觀音崎砲臺を御檢分あり、御歸路鴨居高橋勝七氏の邸に御休憩になりました。お歸り道も前と同じく芝生においでになり横須賀行在所藤倉五郎兵衛氏邸に向はせられました。浦賀有志の方々は當日横須賀行在所に出頭し御禮を言上するところがありました。

あの分教場は今見るかげもない家となりましたけれども實に明治に於ける記念であります、そしてあの世界的に有名な御名君の御臨幸の光榮に浴した家であります。全國小學校で陛下御臨幸の榮ある學校は殆ど十指を以て數へる程で眞に浦賀の名譽であります、どうか皆さんは永久にこの記念すべき學校を忘れ去らぬ様に御願ひ致します、此の學校の前身は神奈川縣師範學校で明治初年小田原の後を受けたもので幾多有爲の教育者を養成したのであります。

以上の談話に依つて詳細を盡して居るが尙ほ調査委員が昨年九月二十四日浦賀町に於ける聖蹟調査の爲出張の際、加渡田鴨居校長、吉永浦賀校長の御幹旋で貴重なる記録を高橋家から發見する事が出来た、元から明治天皇浦賀行幸の折、高橋勝七方に御小休遊ばされた事は傳へられて居るが、頼るべき記録が何れにも残つて居なかつたが今度の調査で當時の記録が高橋家から發見されたのは大なる收穫である。明治十四年辛巳年當用日記大藏省印刷局版權所有」としてクロス表紙金銭出納簿併用で頗る立派な日記簿が使用されて居る。行幸當日五月十八日

ノ憂無カラシムル爲報國ノ至情ヲ傾ケテ之ガ感謝ノ方途ヲ講ジ銃後國民ノ責務ヲ盡ス

三、時局ニ處シテ益々平靜内國力ノ培養ニ力ヲ外大國民タルノ襟度ヲ表示シ大イニ皇道精神ノ宣揚ヲ期ス

右決議ス

昭和十二年七月二十日

教化諸團體連名

上 申 書

今次ノ北支事變ニ際シ神奈川縣社會教化關係諸團體ハ政府ノ方針ニ對シ滿腔ノ信賴ヲ捧ゲ各々其ノ使命ニ順ヒ銃後ノ護リヲ固クシ奉公ノ誠ヲ竭サントス政府ハ宜シク全力ヲ擧ゲテ應變ノ措置ヲ講ジ皇國ノ大義ヲ宣揚シ東洋永遠ノ平和確立ノ爲ニ邁進セラレンコトヲ望ム

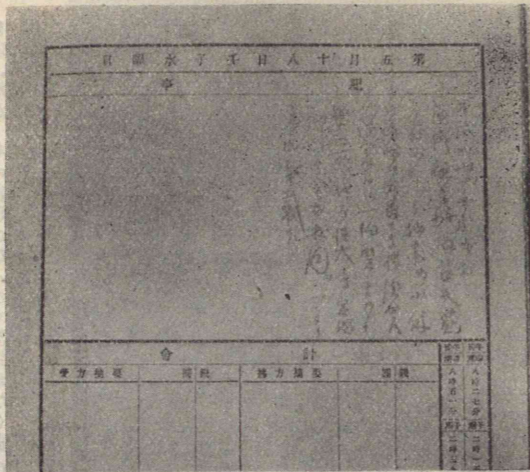
昭和十二年七月二十日

教化諸團體連名

- |          |      |
|----------|------|
| 内閣總理大臣公爵 | 近衛文麿 |
| 外務大臣     | 廣田弘毅 |
| 陸軍大臣     | 杉山元  |
| 海軍大臣     | 米内光政 |
| 文部大臣     | 馬場鐵一 |
| 安井英二殿    |      |

慰問電文

逼迫セル現下時局ニ際シ閣下並將兵各位ノ御辛苦ヲ偲ビ感謝ノ不堪更ニ皇國ノ爲御奮闘ヲ祈ル



(簿記日藏所家橋高)

五月十八日壬子水曜日、午後二時五分本村通御、觀音崎砲臺天覽、同三時五十分拙宅御小休、同四時御出馬にて横須賀藤倉へ御一泊、翌十九日朝同所にて徳大寺宮内卿より金貳拾圓、白羽二重一疋奉戴す。

尙、同日記十七日金銭出納の欄に、松割日雇十錢手杓子十三錢、魚櫃三圓、二十五錢、植木屋拂二圓十錢銀治屋十四圓三十五錢等の記載あり、川島平藏氏の講演筆記の中に「大鯛を献上いたしましたとして大きな器に入れた鯛數尾は宮井清左衛門、三六六兵衛兩名の手で云々」とあり又鹿目常吉氏の談話の中にも「鴨居の高橋家から大きな赤鯛をとあるが恐らく其の大きな器は此の日記中にある魚櫃ではあるまいかと思はれて當時を物語る資料としても面白いと思ふ、又十九日の欄に、白地反物五反四圓八十五錢表具二幅一圓六十錢等の記載あり古老の話に行幸當

日は「玄關から御座所までは白布を敷きつめた」といつて居るがこの白地反物五反も何か當時を物語る資料となりさうである。尙川島平藏氏の講演筆記の中に「あの分教場は……全國小學校でも陛下の御臨幸の榮ある學校は殆んど十指を以て數へる程で眞に浦賀の名譽であります……どうか皆さん永久に此の記念すべき學校を……」これは單に川島氏のみにあらず浦賀町民は無論無上の光榮とし最大の誇として居たのである。これに付いてこんな挿話がある。

御臨幸の當時は相當立派な學校であつたのであるが年所を経るにつれて漸く腐朽し改築せねばならぬ様になつた。歴代の三浦郡長は改築よりは寧ろ分教場を廢して浦賀校に合併するを得策と考へて居たのである。或る時郡長が土地の有志の集合を求め自ら學校に出張し分教場廢止の議を諮らうとした、無論有志の者も早晚分教場は廢止の運命にある事は承知はして居たのであるが、御座所のある校舍を取拂はれる事が親にでも別れる様な悲しさ淋しさを感じて居たのである、それも其等御座所の光榮に浴した教室は常に御簾を垂れ七五三繩を張り廻らし神聖なる場所として塵一つ止めぬ様にしてあつたのである。郡長は學校に出張し校舎内を一巡したが町民が斯くまで大切に居る御座所のある室に靴の儘入つたのである、之を見た有志は憤然色をして「郡長貴公は此所を何處と心得召さる、長くも陛下の御座所で御座る玉座で御座るぞ、この御簾が貴公は目にはつき申さぬか、吾々が張つて置くこの七五三繩が目に見え申さぬか、身を以て範を郡民に示すべき郡長がそれで済むと思ひ召さるか、斯かる郡長の御指示は一切隨ひ申すわけには参りませぬ」と言葉鋭く凛として云ひ放つた、これには流石の郡長も一言の返

横濱だより

宮谷校 南 雲 生

山元小學校の國語發表會

(七月五日)

勇將の下に弱卒なしと云ふから山元小學校の發表こそは實に見物だらうと我も人も等しく非常な期待を以つて集つた。果せる哉その成績や非常に優秀であり吾等の以つて参考とすべき點が少くなかつた。一般の發表會へ行つて見ても校長自らが口述の發表を爲す様のあるところは皆無である。然るに山元では校長自らが堂々と口述の發表をして居られる。眞に勇將と云ふべきであらう。發表中特に感激させられたのは左の諸點である。

1、機構の構成圖表を研究調査されたこと。

機構については主觀的から見れば多少の異論があらう。しかし乍ら機構をかくまで新教科書全部について系統的に研究調査されたといふ事は實に容易ならぬ事である。

2、鍊磨の指導の段を特設した事。

我々は常に鍊磨の事を考へぬではないが大體第三次文意の確認後に序に取扱つたものである。然るに鍊磨の時間だけを特設した事は實に英斷と云ふべきである。

3、兒童劇

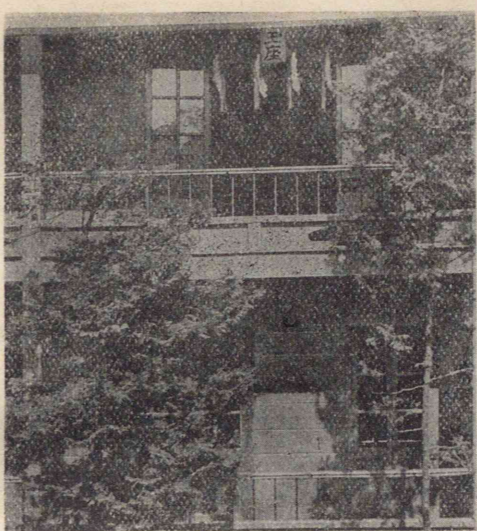
何といつても當日の華であつた。兒童劇の研究者であり權威である小林校長の居らるゝ學校であるから無理からぬところではあるが、あの自然さ、しかも見て居て少しもいや味を伴はぬ點が非常に讚歎に値した。學習をいよゝ確實ならしめ且つうるほひを與へて呉れるものは、かうした學校劇であらねばならぬ。どの教材もがかうした劇にはなるまいが或特殊のものだけはこの様に劇に仕組んで行きたいものである。たゞ之は劇を見て居た時の感であるが劇では現し切れないものがある。例へば當日のりや玉物語の劇で玉の側に居た侍醫の言葉等は、病院の側に居るのだから

す言葉もなく逃ぐるが如くに歸つたとの事であるが其後の郡長は何れも分教場廢止には手を染めなかつたさうである。

又浦賀町宮下四十八番地に居住する鹿目常吉翁は西岸小學校御小休所に於いて煎茶を奉進した光榮を有する人なので、同翁の謹話に依つて補足するに

當時私は十三歳で茶坊主であつた。浦賀では女子より小學校卒業した位の男子が良いといふので私が擧げられたのである。

叶明神の先に島居があつて、そこに長さ十間幅三尺の棧橋があつてボートが着かないので、土地の高利吉などが棧橋で棧橋を繋ぎ足した。陛下は軍服で棧橋から御小休所の教室までお歩きになつた。御座所は二階の一番端の教室で、次の間には岩倉公、西郷公が控へて居られた。私が奉進したお茶に用いた水は觀應院といひ今の社務所の井戸であるが、實はそれより齊藤傳六所有の井戸水の方が良いのでそちらを用いた。その時金一封の墨付を頂いたが、その書類がないので證據がなく強い主張も出来ないである。



御小休の榮光に浴せし西岸小學校

御書食は確か軍艦でおすませになり、こゝでは十分か十五分御休み遊ばされた程度で、御出發の際廊下で鴨居の高橋家から大きな赤鯛を二匹飯臺に入れて來たのを御覽遊ばされた。

御小休遊ばされた西岸小學校は縣下でも有数の立派な洋風の學校であり、御座所に充てさせられた御部屋は鄭重に保存し、町長校長をはじめ里民一同郷士の誇りとしてよく舊形を維持して居つたのであるが、大正十二年の大震災に損傷をうけたので、大正十三年四月一日浦賀小學校の新築校舎落成と共に、建物取毀の止むなきに至つた。されどこの光輝ある聖蹟が湮滅に歸せんことを憂へて、有志の間に記念碑建設の議起り、丁度御座所であつたその位置をトして高さ五尺五寸幅一尺四寸厚さ八寸の花崗岩の碑が建設せられた。題辭「明治天皇駐蹕之跡」なる文字は陸軍大將にして當時明治神宮々司であつた一戸兵衛氏の揮毫で、昭和三年四月一日除幕式が行はれた。

### 移轉のお知らせ

今まで四階で内庭ばかり眺めて熟々と世の中の狭さを叩つて居た私たちも今度は海風を満喫して夏知らず、房總半島を一望の中に收めて風光絶佳、少し頸を伸ばせば亞米利加あたりも見えさうな、五階表玄關の上縣廳内隨一の部屋に移りました。

御出演の節は是非お立ち寄り下さい遊茶位のお振舞はいたしますから。

縣教育會 同人一同  
教員共濟會

## 新しき教育の趨勢

實業教育振興會主催

實業家 小林 一 三氏講演

私は元來實業方面の仕事に主として従つて來たのでありまして、教育に就ては全くの素人でありまして、今日のやうな先生方の御集りの席上で皆様方に御話申上げるやうな資格のないことはよく心得て居ります、従つてこれから話す私の話の内容も、甚だ當を得ないやうな點があるかも知れませんが、この點は御諒承願ひたいと思ひます。

私は昨年外國から歸りました時に會つて文部大臣をして居られた田中隆三氏が言はれますに自分は文部大臣をして居た關係上随分多く教育關係者の會合に出席し、いろ／＼と話を承つたが、どうも教育家だけの意見では物足りないやうに思はれる點もあるで、出來得ればさうした席上に於て、有ゆる方面の人から少し違つた角度から教育に就ての話を伺ふことも亦非常に得る所があるやうに思はれる、君等は外國から歸つて來て、何か耳新らしく教育に就て感じた點もあるだらうから是非機會を得て斯うした席上に於て一つ話して見てくれなかつたといふことで歸朝直後本郷區の或る會館で先生方の集りの席上で、私の卑見を御話申上げたことがありますが、實は本日も斯うした意味に於て御話申上げる次第であります、さういふやうな譯で私は教育關係者の皆様方の前に御話申上げることは今迄殆どなく、後にも先にもこれが二回目でありまして、繰返し申上げるやうであります、専門家の皆様方に纏つた教育的の參考になるやうな話は出來兼ねるやうに思ひますのでこの點重ねて御承知置き願ひたいと思ひます、そこで先づ斯うした機會に私の方から皆様方に御願ひして見たく感じました事柄がありますので、そのことから話を進めて見たいと思ひます、私は當年六十三歳であります、この老齡になりまして、感ずる所あつて實は外國を旅して、世界各國の現状を見て來たのでありますが、日本に居て世界を知り、日本の位置を考へると、外國に出てふり返つて日本を眺めるとでは、その感じが非常に違ふのであり

小さい聲で云ふべきであるのが、劇の上では大聲で云はねばならぬ様な不自然さがそれである。斯うしたところは朗讀方面から充分な理解をさせて行きたいものである。

### 朗讀を主としたる

本町校讀方發表會(七月八日)

朗讀を主としたる讀方の發表會がはじめて開催されるといふので非常な期待を以て參觀した。新しい發表であるだけに參觀人も多く非常に得る點も多かつた。

一體讀方に於ての朗讀は最後のものではあり最もむづかしいものである。我々は從來通讀の段階を経、味讀の段階を経、あらゆる勞作を経てはじめて朗讀の境界に達するといふ順序を辿つたのである。然るに本町校に於ては一足跳びに朗讀へと突進してゐる。之は易より難に進んだ行き方ではなく難より易に逆進した方法であり、我々の最も希望して居つた方法である。之を如實に現したのが此度の發表であり、今迄の國語教育の上に一新機軸を開拓したものと云ふべきである。將來或は朗讀萬能の時代が出現するのではなからうかとさへ思はれる。しかし乍ら我々が新しい方法を採用しようとする時には必ずそこに幾つかの警戒すべき點を見出す。例へば難語句の多い場合、又は複雑な感情が交錯して居る場合等には一足跳びと朗讀へ突入する事の出來ぬ事あらう。又出來るとしても餘程心すべき點があるではあるまいか。我々はこの警戒すべき諸點を研究し本町校の開拓されたこの清新な朗讀への道を辿りたいものである。

更に茲に一言して置きたい事は發表會に先立つて研究部内の各校から研究問題を蒐集され當日の談話題とせられた事である。不幸にして當日は時間の關係上、談話は割愛する事になつたが、この態度こそは單なる一校の研究に止らずして部内の研究へと心掛けた大い心の現れであり、敬意措く能はざるものである。

まず、最も短かい言葉でこの感じを表現すれば、「全く日本といふ國は偉くなつたものだ」といふ感じがしみ／＼と致しました、そこで現在の日本がどうして斯くも偉くなつたのかといふことを考へて見ますと、いろ／＼と人に依つて議論もありませんが、私に言はせれば、教育と貿易の力に依つてこゝまで來たのだといふ感じが強く致しました、さうして日本人は實に根氣よく底力を有つて、黙々として今日の地位を築き上げて來たと言つたやうな感が致しました、さうして外國で働らいて居られる日本人の今迄の苦しい體驗、何をしても第二流の國民、少し劣つた民族として扱はれて來た、その苦しみと今日の日本人の位置といふものを、節氣なく話され、その實狀を視て來まして、私共實に感慨深きものがありました、世界各國を廻りまして随分と澤山の人の會ひ、いろ／＼と變つた話を聴きましたが、どの人に會つても日本の國威が今日全く世界第一流の先進國として認められ、自分達も、有ゆる會合に出て、さうした待遇を實際に受けて居るといふ點は共通的で非常に力強く嬉しく感じました、その時ニューヨークで働らいて居られる或る日本人の方の話を伺ひますと、自分達は何不自由なく斯うして現在アメリカで生活して居るが、一番困るのは子供の教育のことだ、子供だけは、何んとかして日本に歸して、しっかりと日本の教育を受けさせたいといふのでいろ／＼と苦しい體驗をせられたのださうですが、私共外國で生活した體驗のない者は、子供の教育といふことに就て實はそれ程重きを置いて考へて居なかつたのでありますが、その人の話を聞いて初めて自分達の足下のことに就て深く考へなければならぬと言つた感じが強く致しました、何んでもその人はニューヨークで壁にデザインをする特殊の技能を有つて居て、その方の仕事に相當忙しく収入も多く、ニューヨークで暮して居れば何不自由なく、樂な生活を續けることが出来るのだが、子供が昨年九歳になつたので、何んとかして日本の教育を受けさせたいといふ念願が強く、その爲めに自分の生活は一時犠牲にしても子供の將來の爲めに日本に歸つて學校に入れなければならぬといふのでわざ／＼ニューヨークの家を畳んで川崎の附近に住宅を設けて、子供を學校に入れ自分もその間日本で何か新しい仕事を見出したいといふので、日本に歸つて來た、所が仕事の方は別として、自分達が希望する學校へ子供を上げることが出来ない、折角子供を日本の小學校に上げやうと思つて非

常に大きな犠牲を拂つて日本に歸つて來たのにその目的が達せられない、實に情けない思ひをして又アメリカに歸つて來たと言つて、非常に嘆いて居られた、又最近には私の友人で先月の二十五日に東京電燈の取締役に就任した岩瀬といふ人が、これも外國から女の子供二人を連れて歸つたが、その子供を日本の公立の小學校に入れてやうと思つて、いろ／＼と骨折つて見たが、何處の小學校でも入れてくれない、仕方ないので聖心女學院の附屬小學校に入れたが、それではどうも折角日本の小學校の教育を経て、日本の女學校の教育を受けさせ、相當の所に嫁にやうと考へて居る親の心持が満たされな、實に困つて居るといふやうなことを話して居られたが、これは洵に少さい問題かも知れませぬが、外國に働いて居る人達が、それ程迄に日本内地の教育を何んとかして子供に受けさせたいといふ強い念願を有つて居られるとすれば、面倒な手續をしなくても、何んとか便法を講じて、さういふ人達の子弟を希望の學校に入れてあげるやうにこれは一つ實際教育に従つて居られる皆様方にお願ひして置きたいといふ感じが強く致しましたので一寸このことだけ特に前に申添へて置きます。實際外國に出て、先方で働いて居られる方々に接していろ／＼とその苦しい體驗談等を承りますと、斯ういふ人達の爲めには國としても、一般國民としても、出来るだけの援助をし、慰めも致したいといふ心持になります、租税の免除、其他いろ／＼と特別の便宜特典といふことも考へられるのでありますが、せめてさういふ人達の強い念願である、子供の教育といふことに就ては、私は實際にどういふ面倒な手續を要するのか具體的のことは知りませぬが、さう面倒な手續を要さなくても希望の學校に入れるやうな特典があつてもよいやうに考へます、特に横濱は貿易には深い關係のある地であります故に斯うした點に就て特に御考慮願ひたいと存じます。

次に全般的の教育上の大きな問題として、平生先生の提唱になつて居る義務年限の延長、又は學校の建築設備の改善、教授方法の改善といふやうなことが、現在やかましく論議されて居るやうであります、私は現在の日本の教育を、もつと異つた方面から觀て根本的に改革を要する點があるのではないかと思つて居ります、左様な形式方法の問題でなく、斯う申しますと、どうも語弊があるかも知れませぬが、私の申上げやうと思ふのは、その内容形式といふことでなく、今の世の中の動向から推察して、もつと具體的に言

へば、今の資本主義經濟を基調として考へられて居る教育そのものを根本的に考へ直さなければならぬ時代が來るのではないかと思はれるのであります、御承知の様に今やうな資本主義經濟といふものは、永久不變に進んで行くものとは考へられないのであります、このまゝで進んで行けば必ず行詰りを生じて來ると思ひます、この點から考へますと、今のやうな資本主義經濟を基調として、その上に樹てられて居る教育といふものはこれは必ず一度は根本的に樹直さなければならぬ時機が來ると思ひます、そこで今の資本主義經濟がどういふふうに変り行くであらうかといふことに就て以下御參考迄に御話申上げたいと思ひます。現在の教育機構を極く大雑把な簡單な言葉で申しますと、政治、經濟、法律といふやうな、常識論を基調として大勢の人を束にして、同じやうな型にはめて教育して居る、勿論現在の學校教育の中には醫學工學といふやうな専門的知識技術の教育といふも相當に重要視されては居りますが、その基調を成して居る所の小學校及中等學校の教育に於ては、まあ大體から言つて、常識的の教育が主流となり、中學校から、高等學校、それから大學へといつたやうな順序で、斯うした順序を経て大學を出た人が指導的地位に立つて、専門的知識技能を有つた人が、常識的の學問を修めた人に使はれると言つた形であり、さうして世間一般が、この順序をへて居るのであります、私は斯うした教育、即ち常識的の教育に重點を置いて教育をこのまゝ押進めて行くことを考へ直さなければならぬ時機が必ず來る、現に世界の經濟機構の變化に依つて、それではやつて行けなくなりつゝあるといふことを今日特に皆様方に申上げて見たいと思ふのであります、何故常識的の學問でそれがやつて行けないかと申しますと、今の資本主義經濟といふものが、今迄のやうな常識的の動きでなくなつて來て居るのであります、例へば貿易の方面のことに例を採つて考へて見ますと、今迄のやうに自由主義貿易の常識通りに實際は動いて居ないのであります、貿易といふものは、自由に必要な物資を輸入し、多量に産するものは之を自由に外國に輸出するといふことが本來の建前でありましたが、現に各國共、各々關稅障壁を設けて、成るべく外國の物資を自國內に入れないやうにし、反對に自國內の物資をドン／＼外國に出すと言つたやうな政策を執つて居ります、例へばドイツの如きは自國の燃料國策といふ建前から、ガソリンの自給自足といふこ

とに重點を置いて、外國から買へば一ガロン五十錢位で買へるガソリンを、輸入を禁じ自國のガソリンを一圓二十錢位にして一般の消費に充て居る、實に自由貿易の建前から行くと不自然な、不經濟なことをして居る、今迄の常識では判斷出来ないやうな動きが實際に各方面にあるのであります、そのことの良し惡しに就ての議論は別として實際の動きがさうであるとすれば、これは今迄のやうな常識的の學問ばかりで、斯うした方面の指導は出來ない、これは實際にその方面の實情を知つて居る専門的知識技能のある人の意見なり計畫に依つて、處して行くより他に途はないのであります、現に各國共に廣義國防といふ建前から軍備は勿論のこと、生産、輸出、消費といふやうに各部門に亘つてそれ／＼五ヶ年とか三ヶ年とか相當期間を置いてこれが充實整備に全力を擧げて居るのであります、斯うした大きな國家的の仕事に於てもそれ／＼専門的知識、技能のある人が集つて計畫し、その指導に當るといふことでなければ眞に効果を擧げる譯に行かない、この意味で言ふと現在の日本の教育は、斯うした點に重點が置かれて居ないやうに思はれるのであります、現にドイツの如きは、燃料方面にも亦化學工業方面にもそれ／＼専門的知識技能を十分に有たせるやうに、さうしてそれ等の人達の意見を十分に尊重するやうに、教育の重點を専門技術者の養成、指導といふことに置いて居ります、故に國が命じ國が選んだ技術者の意見は十分に尊重されて居ります、要するに非常時局に處するに當る常識的知識ばかりでは役に立たぬのであります、現在日本に於ても、朝鮮、滿洲を打つて一丸とし、九十億といふやうな大きな豫算で五ヶ年計畫を樹て、廣義國防の充實を圖らなければならぬといふやうな國策を一部の人達が提唱し、眞剣にこれが實現に就て考究されて居るやうであります、その内容が如何なるものか、私共にははつきり判りませぬが、常識で判斷すれば、とても出來さうもない無理な相談であります、又先刻から申しますやうに自由貿易の建前からいふと、低金利を持続しなければならぬ、物價を上げてはならぬ、生産機構を擴充し爲替を管理してその統制をとり、輸出入のバランスをとらなければならぬ、而して輸出は出来るだけ多くしなければならぬ、斯ういつたやうなことは凡そ常識的に考へれば、無理であり、矛盾したことであります、どうしても斯うしたことをやらなければならぬといふ事態に立至れば、ドイツの如く、強制的の大きな力をもつてこれを統制してやるより他途はないのであります、

そのことのいい悪いは別として、さういふ必要が起つて、己むを得ずそれをやらなければならぬ、さうすると今迄の資本主義の經濟機構の下に安心して事業をやり、生活をして居た者はいろ／＼の意味に於て不安を感じる爲めに經濟調節委員會、或は物價調節委員會といふやうなものを設けて、その影響を緩和しやうとして居りますが、これは究極するに當面の氣休め施設であつて、根本的の對策としては實に力ないものであります、うまく行く道理がないのであります、病人に例へて言へば氣休めに内服薬を飲み、外傷部分に一寸した軽い手當を加へるやうなものであつて、斯うしたことをいくら繰へしても、眞にその人の健康を癒する事は出來ないのであります、現在の資本主義經濟といふものは、外科的大手術をしなければならぬ時機が、必ず來ると思はれるのであります、そこで教育といふことも斯うしたことを考慮に入れて考へなければならぬと思ひます、現在日本の中央の大きな官廳及地方廳の首脳部と言はれる、官吏を見ますと、その何れもが、常識的知識を有つた謂は、現在迄の日本の教育の主張とでも申しますか、中學校、高等學校大學といふやうな順序で學校を卒へ、教育された人達に依つて占められ、指導されて居るといふことは考へなければならぬ現象ではないかと思ひます、斯う申しましたも、今の役人の人達が全部役に立たぬといふ意味合では決してないのであります、中には専門家も及ばないやうな優れた能力手腕を有つて居られる方もありますが、専門的知識技能、智識を有つた人達がもつと重要視されていふやうに思はれます、鐵道省當りには相當立派な専門的知識を有つた技師の方が相當に多いのであります、是等の技師の人達が、次官若くは局長になることはなか／＼骨が折れる、相當優れた手腕があつてもその手腕力量、専門的知識を役立たせるに都合のいい地位に上れないと言つた實狀であります、私は斯うした點を非常に残念に思つて居ります、仕事の上から言つても人物經濟の上から言つても實に勿體ない話であります、一體我が國の役人、常識教育を受けた指導者達は餘りにも専門家を輕視して居る、これは要するに制度の欠陥と、技術教育、専門教育を餘りに輕く扱つて來た教育上の大きな欠陥であるやうに思はれます、そこで資本主義經濟が形を變へて行くとすれば、どうしても將來は、この技術、教育、専門教育といふことに重點が置かれるやうになつて來ると思ひます、卑近な例で言へば、現在の指導者の立場が逆になり、そのことに就てはどうしても専門家の指導

を受けなければやつて行けないやうになると思ひます、現に昭和の五人男と言はれて居る野口遼といふ人は電氣の工學士で朝鮮の北部で十億圓に近い大事業をやつて居ります、又日本産業で非常に羽振りを利かせ、いろ／＼と大きな事業を計畫し、それを次／＼に仕上げて行つて居る鮎川義介といふ人も工科のエンジニアであります、又化學肥料方面で大きな仕事をして居る中野友禮といふ人も立派なエンジニアであります、鐘紡の津田信吾君はエンジニアではありませんが、二十五歳頃から工場に入つて、實際體驗を積んで來た人でボンヤリとした學校出のエンジニアよりは優れた専門的知識を有つて居ります、又森蟲昶君にしても立派なエンジニアであり、斯うした人達はそれ／＼その道の仕事に就ては専門的知識を有つて、自らで體驗し苦勞して來て居ります、故に、その方面の仕事であれば、どんな大きな仕事、難しい仕事でも、他人には任せられないやうな仕事を、ドン／＼成し遂げて居ります、私は別にエンジニアとして特別の學校教育を受けた譯ではありませんが電氣の仕事に三十年以上も従つて居りますので、大學を出て三年位工場で働いたエンジニアが有つて居る位の専門知識は有つて居るつもりで居ります、そこで私は別として現代昭和の五人男と言はれる程に事業界で大きな活動をして居る人達は何れも前に申しましたやうに從來の主流教育と俗に言はれて居る、政治、經濟、法律といふやうな常識的の學問を修めた人ではないのであります、さういふ人達には出來ない仕事であります、斯うした點から考へて見ましても、將來の日本の教育のポイントを何處に置かうかといふことに就ては相當に深く考へなければならぬ點があると思ひます。

次に物の生産といふ方面から考へても資本主義的の考へ方を或程度に修正しなければならぬ點があると思ひます、私共の想像する所に依ると學校で先生方が教科書の上で教へられる、物の生産といふことは、例へて言へば、燐寸の製造等に致しまして今迄のやうな手工業時代のやうな製法及經營といふものは機械が出来て一變した機械力の發達に依つて大量に物が生産されるやうになつて、一般の人々は非常に安くいものを使ふことが出来るやうになつたと、斯様に教へられることと思ひますが、現在の資本主義經濟機構で行くと、左様な簡単な説明では子供にも納得出來ないやうな状態になつて居るのであります。現在の資本主義機構の下では反對に大量に造つたものを何んとかして高く賣らうとして、努力して居るのであります、即ち價格の協定

とか、生産の統制とかいふやうなことに依つて、行詰つた資本主義經濟のバランスを調節しやうとして世界各國は大變に骨を折つて居るのであります、現在の日本の工業が何故にこの状態の下に世界各國を壓倒して、優勢な地位に立つやうになつたかといふことを考へて見ますと、そこに今迄の資本主義經濟の行き方と少し矛盾した點を見出すことが出来ると思ひます、御承知の如く外國の經濟機構は日本よりは一足先に進んで居た關係上、この資本主義經濟の一つの特徴である、大規模生産、機械力の應用といふ點では日本よりは進んで居たのであります、さうして生活の程度も漸次高度化して、八時間労働といふやうなことがやがて論ぜられる様になり、一般の人の生活が非常に贅澤になつて行つたのであります、日本は御承知の如く外國には例のない、家族制度の下に長い間培はれて來た所の一種違つた所の勤勞精神があり、外國のやうにさう高度の物質の生活をするといふ所まで行つて居なかつたものですから、勢ひその工業的發展の過程も趣を異にして發達して來て居るのであります、即ちいろ／＼の原因に依つて、外國のそれの如く大規模生産、極度の機械力應用といふ域に迄日本の生産工業が發展しなかつたのであります、そこでどういふ形で進んだかと申しますと、家族を中心として、一家協力して朝早くから晩遅く迄一家族の者が寄り集つて相協力して物を造るといふやうな家族本位の家庭工業が中心になつて、發展して行つたので、これが非常に強味となつて行つたのであります、例を擧げて申しますと、濱松方面の機業、金澤の金箔手工業といふやうなものが有りますが、これ等は代表的に優れた日本の有つ手工業でありまして、金箔を何十萬分の一といふやうな薄さに延ばすのであります、實に鮮やかな技術でありまして、機械力をもつてしても如何かと思はれる位に立派な製品を出して居ります、而してこれは、何十年となくその地方の家庭を中心として、その技術を訓練されて來たものであります、女、子供にもそれが出来るといつたやうな有様で、この地方の特殊の手工業として、その需用を一手に引受けて居ると言つた實情にあります、又私は先達つて新潟の理研の工場を、二、三視せて貰ひましたが、理研がどうして斯様な田舎の部落に工場を設けたかと申しますと、勿論勞賃が安いといふことも第一の條件でありませうが、働く方の側から言つても、都會地の大工場に時間を限られて出勤して働くのと違つて、家族が力を合せて時間に制限なく、自分の家で仕事が出来ると言つた所に非常に強味

があるものであります、これは双方に都合のいいことであつて、日本のやうな家族制度の國でなければ出來ない所の優れた生産工程であると思ひます、斯うした點は一寸外國では真似の出來ない點で將來の日本の生産工業も斯うした點に着眼して技術教育を進めて行けば非常に大なる効果を擧げることが出来るのではないかと思ひます、現に大都會中心に工業が發展し、地方農村は財政的にも非常に苦しんで居るのでありますから斯うした方法に依つて、新しい手工業の領域を開拓して行けば、一舉兩得ではないかと思ひます、アメリカの某製鐵會社の副社長で、サリバンといふ人がありますが、この人が日本に來て各地の工場を視て、退職手當金の制度のあることを知り、これは日本のみの持つ家族的な非常にいい組織だから、これを一つアメリカの自分の工場で採用して見たいと言つて歸られたのが、彼は四、五年前でありましたが、その後如何になつて居るか詳しいことは知りませぬが、現在アメリカに於ては非常に勞資間の對立が激しくて、いろ／＼の事業の經營上困り抜いて居るやうであります、昨年の春でありましたか、私共の關係して居る東洋製鐵會社の首腦者である高橋さんが、アメリカに出掛け、偶然にも車中でフウバー氏に會つた時、やはりさうした意味の話が出たさうであります、アメリカは現在、勞、資間の對立が非常に激しく、勞働組合が團體交渉權を要求して已まない大統領として、どうしてもこれに賛成をしなければならぬ立場にあるので、事業の經營が非常に難しくなつて來る、一朝有事の際には、如何にしてその間に處するか、その對策に就て實に悩んで居るといふやうな意味の話が出て、その對策としてサリバン氏の報告に依り日本の退職金制度を採用して勞働組合から離れるやう研究して居る、現に一、二の工場に於ては既にそれを採用してやつて居ることでありました、その一例としてカーネーション、ミルク會社といふ大きな會社がありますが、その支配人格である、スチワードといふ人は、次のやうなことを言つて居ります、自分の會社は開業以來數十年を経て來て、世界各國に支社があり、七十の工場を經營し一日に何千萬個といふやうな大量のミルクを生産し、多くの従業員を抱へて居るが、自分の會社では未だ勞働爭議を起したことがない、それはカーネーションファミリでやつて居る、而してこの獨特の指導精神は日本の家族制度からヒントを得たのだ、といふやうなことを言つて居るさうですが、今日の世界の産業界は斯ういつたやうな動きを見せて居ります併し實際問題

として、それ／＼國を異にし生活様式が違つて居るのでありますからこの日本の制度そのまゝを外國で採用してもそれがうまく行くか、どうかは疑問であります、それと同じ意味に於て外國の資本主義經濟機構そのまゝを日本でも採り入れてやることは考へべきことで、現にその機構が行詰つてゐるとすれば、それは大いに考へなければならぬ點であると思ひます、お互に國を異にすれば、その生活習慣、即ち民法といふやうなものも自から違つて居ります、ドイツの如きは、夫の遺産全部を妻が引繼ぐことになつて居り、フランスは、妻が半分、子供が半分といふことになつて居ります、さうして扶養の義務といふやうな點に就てもそれ／＼違つた解釋をし、違つた定めをして居るのでありますから、日本のやうな纏つた家族制度とは比較にならない。日本は實に斯うした點では他の國々が追隨出來ない立派な纏つたいい制度を有つて居るのであります、この制度の力を利用して、大工業經營の行詰りを打開する爲めに出来るだけ分解作用を行つて深く新しい生産領域を創り上げて行かなくてはならぬと思ひます、斯うした意味から言つて、歐米流の資本主義經濟機構に相當大きな變革修正を加へなければならぬ時代が來ると思ひます、要するに今迄のやうに資本萬能、利益の獨占といふやうな觀念で事業をやることの出來ない時代が來る、言葉を変へて言へば金の力よりも統制の力、人の技能、専門的知識が重きをなす時代が來ると思ひます、即ちエキスパートの時代が來る、そこで教育といふことも斯うした角度から考へると今迄のやうに政治、經濟、法律といふやうな常識的の學問を主にすることは考へなければならぬ、即ち將來の教育の重點は理化學、機械、工學其他有ゆる専門的知識技術者を養成するといふ點に置かれなければならぬのではないかと思はれます、私は先達つて早稲田の工手學校の講師に御目にかゝつていろ／＼と話を伺つたのであります、この學校は非常に年限の短かい、中等程度の學校であります、卒業生等の賣行は非常によく、最近學校で少し金が入ることがあつて、三萬圓程集めやうと思つて卒業生に通知を出した所、十五萬圓集つた、これは最近の軍需インフレといふやうなことも手傳つて居るのであります、一方さうした卒業生を採用する方の側から言つても、最近常識的大學教育を受けた人よりも、斯うした程度の人の方が實際に必要であり、役に立つのであります、最近非常にやかましく論議されて居る熟練工の養成といふやうな點から考へましても技術教育といふことが如何

に重要なことであるかといふことが、考へられるのではないかと思ひます、そこで學校教育といふものゝ大きな使命である世の中の爲になる人を送り出す、役に立つ人を送り出すといふ點から考へましても、なるべく優秀なエキスパートを一人でも多く世に出す學校が、多ければ、多い程、その國の飛躍力進展力が大となつて來るといふ結論に到達するのであります、俗な言葉で申しますと、今迄は手に職を有たせる教育をすれば、どつちかと言ふと、人に使はれる地位に置かれることであつて、餘り人の前では自慢にならなかつたのであります、將來は、腕に職のある、専門的知識技能を有つた人が指導的の立場に立つのだ、さうしてその専門的知識を役立たせて世の中の

### 國民融和の徹底を期する

#### 國史教案懸賞募集

##### 趣 旨

國民融和の問題は時の推移に加ふるに、國民の自覺と官民の協力により漸次良好に赴きつゝありと雖も、未だその暗翳を根絶するに至らず却つて陋習は深く社會の裏面に潜入せんとする憂なしとせず、これを未然に防ぐは、實に教育教化の力に俟たざるべからず、融和教育の唱導せらるゝ所以にあり。

特に融和精神の普及が現下の非常時局に際し特に重要な痛感し前年度に於て修身科の教授案の懸賞募集をなし極めて好成绩を収めたるに鑑み、本年度は國史科に於て、國民融和の徹底を期すべき教授案の研究に請はんとし、左記要項により融和教育教授案の懸賞募集をなさんとす。

##### 神奈川融和教育研究會

#### 融和教育教授案懸賞募集

- 一、教 材  
小學國史教科書中より隨意選擇すること
- 二、對象兒童  
(イ)一般兒童のみを對象とするもの

- (ロ)關係地區兒童の混在するもの右何れにても可なるも、其の旨明記のこと
- 三、審査の要點  
(イ)一般國民教育の基調に立ち融和精神の涵養に資するものなること  
(ロ)無理がなく、しかも強く融和觀念を徹底するに足るものなること

#### 四、審査官

縣視學官 男女兩師範學校長

#### 五、賞

入賞者には賞狀並に賞金を呈す

- 一 等 十 圓 (一名)
- 二 等 五 圓 (二名)
- 三 等 三 圓 (三名)
- 佳 作 賞 品 (若干名)

- 六、締 切  
昭和十二年九月三十日
- 七、發 表  
昭和十三年三月號『青和』武相教育誌上に於て發表す

#### 八、原稿届先

神奈川縣廳社會課内「融和教育研究會懸賞係宛」

爲め、人類の生活向上の爲めに働くことに意義があるのだ、親から貰つた遺産に依つて、資本の力、金の力のみで依つて、遊んで居て生活することは、いけないのだといふことになつて來ると、現在の教育制度を根本的に考へ直すなければならぬ時代が來るのではないかと思はれます、甚だ纏りのない話に終りました、皆様のやうに現に實際教育に従つて居られる方々が、斯うした點に重點を置いて、將來の教育といふことを御考へ下さることも亦大いに意義があることではないかと存じまして、實は最初に申し上げました通り一應は斯うした席上に出て話をすることを辭退したのであります、敢へて本席に出て御話申し上げた次第であります。(拍手)終り。(文責在速記者)

#### 山口縣教育會發行

### 松陰詩稿詳解

吉 富 治 一著  
全一冊菊版二七三頁  
定價壹圓貳拾錢(送料不要)

本書は吉田松陰全集第三卷松陰詩稿中の漢詩を、斯界の權威吉富治一氏が、世の青年子弟の爲に、詳らかにその典據故事を究明し、難語句を摘解し、尙全篇の意義を通釋して、讀解に便すべく、心を碎きて講述せられたものである。申込は前金にて左記振替口座に御拂込を願ひます

山口市後河原

#### 山口縣教育會

振替口座下關三七〇〇番  
福岡一八一八番

### 本會中興の名會長石井錦樹氏を送る



會長石井錦樹氏

前會長石井錦樹氏は、曩に本會多年の懸案たりし改組の大業を斷行して、躍進神奈川縣教育會の基礎を築められ爾來銳意本會向上進展のため、目ざましき活躍を續けられてゐた處、突如今回兵庫縣へ經

濟部長として榮轉せらるゝことゝなつた

聖蹟調査に着手し、或は教員座談會を催して下情上達の途を開き、或は福利事業委員を設置して一般會員の福利の増進を圖る等、其の輝かしき功績の数々を永く本縣教育史上に特筆して傳ふべきものが多

くある。

氏は前記の如く事業家敏腕家であると共に一面又芳醇の温情に富んだ君子であつた。生來、容姿端麗溫雅にして貴公子の如き俤があり、春陽和煦、親しむべく懐かしむべき温情を内に湛へてゐた。その二三の例を擧ぐれば、

「前途多望の少年少女は平素公務の餘暇を以て、須らく修養に努むべきである。この故を以て、予が在職中何とかして諸君のため修養の方策を講じたい念願なりしも、公私多忙のため遂に其の意を果すを得なかつたのは遺憾である。庶幾くはこれを資金の一端に加へ、各自修養を怠らぬやうに。」

願みれば、

氏が本縣學務部長として赴任せられしは昭和九年の八月であつた。爾來茲に滿三ヶ年、致々として本縣教育行政の刷新を圖られ、其の功績の顯著なるは言はずもがな、特に本會々長としては、組織の大改正を決定し或は創立五十年紀念事業として神奈川縣教育五十年回顧展覽會の開催、神奈川縣教育五十年史の編纂刊行をなし、或は紀元二千六百年紀念事業として、明治天皇

る。しかも己れを信すること極めて強く、所信に向つて勇往邁進するの氣慨があつた。されば其の明敏なる頭腦の閃く所、毎に何物かの刷新が企圖せられ、同時に何等かの改善が斷行されるのであつた。加ふるに、格勵勵精で、日々卓上に堆積する諸案件を、片端からドシ／＼處理したつて、所謂裁決流るゝが如き觀があつた。惟ふに本會改組の偉業も氏の如きタイプの會長を得

て始めて成し得たので、此の意味に於て、天は本會の改組を斷行せしむべく、暫く斯の人を本縣に配したとも見られよう。

「向ほ傳へ聞く所によれば、氏が本縣を去るに臨み、廳内男女青少年を以て組織せる實行會及び多り會に對し、その前途を祝福して止まないものであ

### 佐藤鎌倉師範學校長の津久井郡視察記を 讀みて感あり

一、はしがき

私は津久井郡で生れ津久井郡で育つた微力な今日の存在なのであります。それ故津久井は私の親しい故郷であり一木一草皆思出の種子となるのである。顧みれば津久井郡に生れて十四年間風光明媚な山容水姿に親しみ、その後を負つて上京し二十歳にして、病を抱いて故山に歸り申川校（今の申川第一校）に準教員を勤務すること二年半、それから師範二部に入つて再び津久井に歸つて根子屋校（今の申川第一）に校長となつて五ヶ年、更に協心校（今の中野校）の校長に轉じて三ヶ年、三十一で鎌倉郡視學に出る迄勤続したので結局、東京生活七ヶ年に鎌倉生活足掛二年間を除いて二十餘年間は津久井の天地に生活したのである。

生れたところ、育つたところ、そして教員の卵として巢立つたところ、若輩の校長として苦勞したところである。然るに爾來こゝに、二十餘年此のなつかしき津久井を去つて顧みることなく轉々として多忙の日を送つて今日まで過して來た私は、佐藤校長が數日間かゝつて津久井を視察してこられた記事が此の武相誌で見て往時を追憶して感慨轉々切なるものがあるので、敢て茲に標題を掲げる所以である。

#### 二、佐藤校長の人格的行動に感謝し 深い考慮に對し敬意を表す

先づ第一に私は佐藤校長の人格に敬意を表する、記事申各校職員の特別な御配慮と云ひ御説明とあ

高 津 齋 藤 篤 太 郎

る、かゝる文中に特に御の字を用ひらるゝ校長の人格を喜ぶものであると同時に今回の視察の目的は文中に表示せらるゝは表面的で、その實は校長が自分の教へ育てし卒業生の慰安と、そして郡下の教員を弟愛の真情から出たものであると共に郡下の教員をして激勵する心であられたこと、と推察する。

もう一つには、經濟的苦境にある津久井郡を凝視して、之に産業的生命を何れの方面より注入せんとするかを研究され様との深い考へのあるといふのことは、校長が曾て縣下各學校卒業記念として植樹を奨励せられた事より見て、我點がゆくののである、産業の事は産業専門家の考へに托すればよいとの考へ方には、私は賛成出来ない。方面を異にし角度をかへて見るときに、そこに本當のものが發見せらるゝものである。と私はかく信ずる。次に又唯單に教育者ばかりでなく郡民一般に對して今二宮となつて尊徳翁の荒田を耕す前に先づ心田を耕せといふ眞意を、巡視せられし學校の校長、職員、兒童を通じて郡民に徹底せしめんとする深遠の考から出た津久井行だと思ふ。即ち佐藤校長の此の度の津久井巡視の心境は二宮尊徳翁が櫻町に臨まれた時の考へと同様であると思ふのである。

#### 三、津久井の學校では本當の教育が 出来る着眼點について

視察記事申第三項に津久井郡の何れの學校を巡視して見ても兒童數といひ學級數といひ、小じんまり

として教育の力が偶から偶まで行き届いて居る、魂に徹する教育が本當に出来る」と結論を下されて居る。

私もさう思ふ、人口稠密な所で何千人もの兒童を收容して居るところでは、自然一學級の兒童も七八十人もあつて思ふ様に行き届き兼ねる。校長は部下職員數十人を統制していく丈でも容易でないのに更に又小うるさい外界との折衝に、氣も心もくさ／＼してしまふのが常である、斯る處では中々思ふ様眞の教育の實績は舉らないのである。

御恥づかしい話ではあるが私は三十年近い教員生活申、教員として、本當に働き甲斐のあつた時代は津久井郡在任の時であつたと大膽に自白する。若輩にして根小屋小學校に校長として一校經營の任に當つた時である。

校長が事務にも追はれず、續々押しかける來校者との應接の時間潰もなく、學校の内外の種々相に囚はれる事もなく、専心、校長として、訓導として、教育の理念に向つて邁進が出来る、眞に進むところ何物もなく、坦々たる教育道でゆけた。現代文士の錚々たる押しも押されぬ現代作家の雄鎮である加藤武雄氏がまだ若冠の頃、此の學校で私と手を握つていつしよに働いた。

尙此外に、二、三の職員の手を協せて、奮闘努力赴任後二ヶ年にて當時學校の金鵄勳章であつた、あの赤色に三筋の白線入りの教育獎勵旗を知事から貰つたのである。

その當時根小屋校時代の生徒は、今や郷里に居つて重きを爲すもの、中央の實業界に雄飛して居るもの、工場經營の重任に當つて居るもの等が、あの山の中から澤山輩出して居る。

そして此等の者が二十數年後の今日、昔の舊師である私を時々招して一夕の宴を張つて呉れて居るのである。

之は聞き様、見様によれば、妙にとれるが私から考へれば津久井の環境が斯く然らしめたと思つて愉快の思出となつて居るのである。佐藤校長の津久井は本當の教育が出来るところであると喝破された點に最高度の賛意を表する所以に實にこの點である。

#### 四、津久井の學童は眞實味豊かである といふことについて

津久井の學童は皆和服ばかりとの豫想に反し、大體半數は洋服であつたと校長は驚かれて居る。そして此の分では、都會の風が大分にしみ込んで居ると、聊か悲觀して見て居る中に、この豫想に反した洋服に、所謂津久井魂を包んで毫も上調子な、輕薄な生意氣とかがないと思ふで居る。

洋服は着る、靴ははく、帽子は着けるが、津久井傳統の精神に變化は來たさな。之は恐らく津久井のあの豪快な山容や、嚴として動かない山貌など、さては谷間の大きな石に清流がブツカツテ數千數萬の水滴に砕け、次に又結び合つて一つの清流となつて又更に大巖石にブツカル、あの山この水の自然的環境が人心に及ぼせる影響ではないでせうか。

これもお恥しい話であるが、根小屋校長時代私は佐藤校長の所謂自己犠牲にして、他を生かす社會的、奉仕的活動は、人間として更に必要である、此の方面の勞作がよく行はれ郡下兒童の美點であると云はるゝ、此の點をつかんで、當時英國のボーイ、スカウト、に例をとりて根小屋小學校善行團を組織し（今日の少年團の如きもの）日曜日には田舎の山道の左右より掩ひかぶされ居る雜草を刈りて通行人

### 箱根芦湯恩人碑 第三回祭典の盛況

去る七月十一日（日曜）午後一時より辨天山にて施行さる。この日、文部省社會教育局長山川建、神奈川縣知事代理金井社會教育主事、全國大學教授聯盟長北島博士、同幹事（日大教授小松雄道、恩人碑鎮仰會長（東日記者）長瀧武、大阪平民病院院長加藤時也氏など見えられ、當の峰間鹿水氏も前夜より詰められて居る。

川邊儀三郎、松坂康、市川憲治、それに眞鶴町長松本氏組合長安藤武氏、振興會長小川仙二氏、箱根神社宮司手塚道男氏、函嶺小學校職員一同なども參列して、かれこれ四十餘名、雨森大人の末裔として杉浦氏、代拜せらる。型の如く神式をはりて、祝辭祭文にうつり。

- |      |            |
|------|------------|
| 第一席  | 小川文部社會教育局長 |
| 第二席  | 鎮仰會長       |
| 第三席  | 組合長        |
| 第四席  | 大學教授聯盟會長   |
| 第五席  | 眞鶴町長       |
| 第六席  | 日大教授       |
| 第七席  | 加藤時也       |
| 第八席  | 社會教育主事     |
| 第九席  | 小泉竹洞       |
| 第一〇席 | 南大教授       |
| 第一席  | 雨森家        |
| 第二席  | 杉浦 卯吉      |
- 等々の順序で行はれ、司會、開會、閉會等の采配は、主として川邊、松坂、市川の三氏で幹旋された。

最後に安井文相の祝電  
「ケフノセイテンヲシクス一ソウノリウセイ  
ライノル」  
次いで、文部省通局長兼專門局長の祝電  
「ケフノセイテンヲシクスアハセテシヤカイ  
ケウカノマスマスヒロクオコナハレノコト  
ヲセツボウス」

なほ全國大學教授聯盟よりは、  
「ミネマクシノオンジンヒニツクサレタルイ  
ダイナルコウセキヲサンス、ナホ一ソウテ  
ツテイテキニモクテキカンテツライノル」  
をはじめ、報知新聞記者、寺島隆太郎、茨城記者、多田善一、小田原中學校等々三十餘通に上つた。

#### 山川男爵の祝辭

本日茲に第三回恩人碑記念祭ノ舉行セラル、ニ際シ一言所懷ヲ陳フルコトヲ得ルハ予ノ最モ欣幸トスルコトナリ。方今社會事情ノ複雑化ト共ニ皇國傳統ノ美風タル報恩感謝ノ情ノ薄ラキツ、アルハ社會風教上マコトニ寒心ニ堪ヘサルトコロナリ、斯ノ秋恰モ感恩報謝ノ凝結體化タル恩人碑ノ由來ガ普ク天下ニ顯彰セラレ朝鮮小學讀本ニハ其ノ教訓トシテ採録セラル、ニ到リ到處世道人心ニ資益シツ、アルハ邦家ノタメ洵ニ慶祝ノ至リニ堪ヘザルナリ。願クバ今後續行セラル、此ノ舉ヲ通シテ益々社會教化上淳風良俗ノ向上進展ニ向ツテ強力ナル裨補ヲ與フルニ至ランコトヲ聊カ所感ヲ陳ベテ以テ祝辭トナス  
昭和十二年七月十一日  
文部省社會教育局長 男爵 山 川 建

#### 北嶋博士の祝辭

……思ふに道徳の眞髓は、一面博愛慈仁に在りて存し、一面は報恩感謝に依りて、人生の完美を見る。然して斯の恩人碑は、完全に人間道徳眞諦の兩面を具現す。今や都人行業の凶嶺絶嶺に於て、斯の人生道場を新造し風化を江湖に及ぼし、施いて朝鮮國定讀本に收められ、更に内地の國定小學讀本にも採録せらるるの議ありと聽く洵に世道人心を陶鑄する上より欲躍に耐へざるところ也。なほ郷土讀本にも一課を劃し、神奈川縣教育の威容を天下に示しつつあることは、余輩の風に感嘆崇仰うた、欽羨のきはみなり。

全國大學教授聯盟會長 醫學博士 北島多一  
なほ、列席の小泉竹洞氏は、即詠五首を朗吟せるが、中

の便宜を計りたり、社寺境内の掃除をしたり、當時の根小屋の豪家、久保田の主人と計りて道路の側に造つた無料庵（夜道をする人に提灯をかし、俄雨の場合に雨傘をかし、氣分の悪い者の一時の休憩所）の仕事の御手傳ひをやつて相當の成績を挙げたことを記憶する。今日では各地に少年團が組織せられて私の昔やつた善行團のやうな仕事をなして居るが、少年團のための社會奉仕、着けて居る團服の爲めの社會奉仕に終らない様にした。昔私のやつた善行團の仕事は、佐藤校長の云はるゝ涙ぐましい熱心であつた、此の心が今の津久井の兒童の心に残つて居ると聞いて嬉しい。此の心掛はやがて農村更生を雙肩に負ふ、兒童の永久に變らない様に、私も念願して止まぬところである。

五、教育進展の裏には涙ぐましい教師の努力がひそんで居るといふ點について

津久井に至る處經濟的には豊かな學校經營が出来ないので、運動場の片隅の鐵棒や運動用具は勿論、教具類の多くは教師兒童の共同製作にかゝると佐藤校長は見て居る。

海に津久井在任の教職員諸君が、よく學校經濟の困難に打勝つて、教具類より運動用具の何から何迄に、兒童教師の共力でやつて行くところに、眞の教育の道を求めて活動せらるゝことに私は人一倍敬服する。

私は思ふ、一つと教具、一つの運動用具にしても之を教師と兒童と共同作業によりて作り上げる、そこに教育者との魂の交換が行はれ、本當の人間教育が出来るのであると思ふ。之につきて思ひ起すは、數年前、橋樑郡宮前小學校で當時校長の田代太郎次

氏（現縣視學）が全職員と全兒童との永年の力によつて教室の教具類から、便所の手洗に至る迄、運動器具の總べてが完成せられたことである。

宮前校支關正面に高く掲げた『性格育成』の大職の下に此の涙ぐましい聖なる尊い勞作が、數年繼續せられ偉大なる効を收めて教育の實績を挙げられたことである。教師、兒童の勞作なしに、あれもこれもと備付けられる學校は表面的には、經濟的に學校經營に恵まれて洵に結構ではあるが、深く考ふるとそこに教育上一抹の淋しさを感ずる。

尙又、これにつけて往時を追懷するに、先輩高城研氏が津久井視學たりし時に、盛に教師の手による教具製作を奨励し毎年の様に、教具展覽會を開催して獎勵せられたので郡下の教員がこの趣旨に眼醒めて夜を日について此の方面に努力したものである。更に又當時最も流行した一時的な美裝せる成績品の餘弊をかなぐり捨て、手垢のついた展覽會（平素の成績品）と名をうちて開催したことが縣下教育界をあとと云はせたものである。

當時私の先輩齋藤元近氏、森田浪太郎氏、金子一三氏等は克く研究せられ作り出されるものが皆創意的でその職務に對しては實に獻身的に努力されたことを思ひ出すと共に私が此等の諸君に指導鞭撻せられた事を感謝するのである。

六、津久井郡の更生は他力でなく自力で行けとの一警句について

津久井郡の經濟更生に就ては、縣當局は多年苦心せられて居る。曩には、長官の視察となり、近くは經濟部出張所の新設となり、更生開發に就て、あらん限りの力をしばつて随分と腐心せられて居ることは、誰が見ても能くわかる。

「雲淡く風輕く無心の津久井の天地は、舊によりて親しむべきも、一郡の桑拓吹煙颯らさるを見、昭和聖代に饑饉凍餒に瀕するの窮民あり。呼。是れ津久井郡民の未だ眞個自覺せざるに依りて、此の窮狀を來したるか、自覺せざれば、如何にして自覺せしむべきか、自覺の後は如何にして誘掖指導すべき乎。」

とは、眞に是れ縣當局の心持ちであらう。縣政に當る者、爲政者、經世家として實生活の問題に觸接したる場合は、此の誠意ある意志の餘蘊は誰しもほとばしることであらう。

五畝の宅、之に樹うるに桑を以てすれば、五十の者以て帛を衣るべしと。古人の言やよし。

然れども現時に於ける津久井郡民は、秋成ると雖も、他に輸して足らざる所以のものは、郡中主要なる産業である養蠶が、最近極度の不況であると云ふ外に、他物質文明の進歩に伴ひ生活狀態向上し來りて、その餘餘は觀面に無辜の郡民に支出を多からしむる様になりたる事、尙、更に時代適應せる合理的改良の増收を圖る事を爲さずして、唯漫然舊態に安するの風あると同時に、養蠶以外他に郷土の氣候風土に適したる、新産業は何んであるかを、自力によつて研究調査するの能力と、氣概とが乏しくはないかと云ふ事の外に、一つ、經濟不況に打勝つて行く勤務力行の所謂農民魂が缺けて居りはせぬか。

佐藤校長曰く、『津久井郡民が人にたよつたり出張所にたよつて居つては永久に更生する事は出来ない。二宮先生も荒田を耕す前に先づ心田を耕せといふ意味の事を言はれて居る、經濟更生の根本は村民の精神更生からである。』

君の力によつて津久井の偶の偶迄に徹底させて戴きたいものです。

七、津久井の發展の源泉は教育であるとの激勵について

最後に佐藤校長は津久井の發展を望むと題して郡下二百數十名の教育者が和衷共同して着實剛毅、勤儉力行の村民文化を建設して行く大教育方針、大信念を以て日々奮闘して行く、その將來には必ずや美しい津久井教育が實現せられ、津久井は必ず更生發展すると力強く結ばれて居る。

洵に有難い哉、此の激勵の一言、私は思はず涙がこぼれた。不敏である、私は先輩の高城、齋藤、森田、西川の諸氏と時々横濱に會して遙に津久井の空を望んで郡下在任二百數十名の同僚諸君が獻身的な教育活動に對して敬意を表して來たのである。郷を離れて郷を忘るゝものにあらず、生れ故郷に對して切々綿々たる情味は滾々として汲めども盡きせぬものがある。

冀くは郡下同僚諸君。今回佐藤校長の津久井行は師範學校長といふ唯單なる御役目的の視察ではない佐藤校長の深い考から發したるものであると云ふことをよく洞察しよく承知して戴きたいものである。

記し終れば、七月の夏の夕空は、クツキリと晴れた渡り、流れも清き多摩川畔、高津の里よりいとハツキリと丹澤山脈は一線を劃して紫色に見ゆる。折柄夕陽は西に傾き、今を名残りの落暉の紅、幾千萬條の光箭を、婉々として眠れる津久井アルプスの波濤に射かけて山も焼ゆれば雲ももゆ。過去の津久井は、かくして消え行くとも將來の津久井は、底力強い教育の恵光により雄大豪壯にして崇麗にして、堅實なる、永久なる根本的な、旭日冲天の朝暉に接するであらう。

二首を抄録しよう。  
草華の中に埋れし石ぶみも  
教科の書と世をしるべする。  
雲助も里のわらべもひれ伏して  
其のかみしの石ぶみや是れ。

○大阪の平民病院長加藤時也氏は、峰間氏の美譽をきかれ藥費を投じて頼んで來た。氏は夙に大阪市外の故園井東庵を顯著して居る。東庵は今から百五十年前以前に物故されし、一醫、世にたぐひなき仁侯の印しであつた。基本金にも寄附され、社會教化の上から地元民、殊に神奈川縣民の大に奮起をのぞんで夜行で歸阪された。

○峰間水氏は、昨秋たま／＼、從四位に昇敘され、近頃陸海兩相より、上海事件並に滿洲事變に功績顯著なりとて、武者像一個をたまはつた。同氏の前途洋々たるものがある。

○長瀬武氏（徳富蘇峰翁秘書）帝國教育會總會で、滿場一致で、終身會員に推舉されたほどであつて、衷心から一國の教育に心を砕いて居られる。この恩人神詣仰會本部を東京青山會館に設け、全國に呼びかけることにきまり、會長に自らなつて、采配をふることゝなつた。

地元では、松坂、川邊兩家、組合長、振興會長等々もいたく力腐をいれて居る。來夏第四回の祭典は今より期待されて居る。（七月十五日、山上にて）

研究指定學校

縣學務部に於ては左記の通り研究指定をなし、本月八日關係學校長の來會を求め夫々打合を行つた。

横須賀	船越	兒童訓練に關する研究
平塚	高小	職業指導に關する研究
橋本	稻田第二	學習指導に關する研究
都筑	都田	校外訓練に關する研究
三浦	三崎	郷土に立脚したる學校經營
鎌倉	御成	兒童體位向上に關する研究
高座	旭	情操教育に關する研究
中	大磯	國民精神涵養に關する研究
足柄上	開成	生活指導に關する研究
足柄下	小川原第一	學級經營に關する研究
愛甲	厚木	國體の本義に基く學校經營
津久井	全郡	教化に依る郷土更生

研究指定打合會要項

一、昭和十三年二月末日限り研究要領を報告されたし報告要領

1、知事宛のこと  
2、隱寫刷のこと

一、昭和十三年五月以降同十四年二月迄の間に研究發表を行ふ豫定

研究發表要領  
1、追て縣公報により公示のこと  
2、研究物は百頁以内のこと  
3、發表時間は一時間程度のこと  
4、會場校は實地授業をも併せ行ふこと  
一、昭和十三年年度以降奇數年度に發表を繼續の見込  
一、研究要領  
1、永續的に行ふこと  
2、理論に馳らず實績を實施すること  
3、研究資料は廣く縣下に求めむるも可なること



# 領臺四十年後の臺灣視察

人情風俗編 (其ノ二)

村岡小學校 寺 内 時 二

以上は臺灣に關する産業の一般を述べて如何に彼の地が資源國として内地を潤はしてゐるかを知つて戴いたのでありますが次に此の地の人情風俗について見聞のまゝを述べ更に思想上行政に困難の多いことを申し上げて終らうと存じます。

先づ住民から申しますと内地移住者を内地人といつて二十數萬人、約三百年前支那から移住した支那系の人を本島人と稱して四百五十萬人、山地に居住してゐる者を蕃人と稱して約十五萬人、それ〴〵居るを異にし混然一體となることは出来ず居る。

由來本島人は勤勉で狡猾な外來の文化を吸収することの難い民族で之れが治臺の大困難とされてゐる點である、元來之れ等支那人は今より三百年以前より支那福建省から移住を始め、その前より平地にあつて農業を営んで居た今の蕃人の祖先を主として雇傭せられてゐたものであるが勤勉である處からよく働らき地主にも氣に入られた、然るに文化は進んで居り狡猾な所から追々本性を現はし遂に蕃人祖先は忽にして平地を追はれ山中に密閉さるゝに至つた。之れに就ては面白い話がある。彼等が移住當初の勤勉は地主にひどく氣に入つた、そこで主人に牛の皮程の土地をねだつた地主は二つ返事で承知した、支那人は牛の皮一枚を細い巾にきざみ長く繋ぎ合せてそれで土地を劃して杭を打ち之れ丈は牛の皮

一枚分有難く戴きますとて約二三町歩を物にし如何に地主が苦情をいはうが頑として聞き入れず泣き寝入りしてしまふといふ遣り方、又一つは一日耕す分の土地をねだり承知させて置いてさて鋤を持ち一日中輪廓を描き數町歩に杭を打つてしまつて頑として聞かず之れを一日耕す分として手に入れるといつた様な話が幾つも残されてゐる。

鐵首とか出草とかの蕃人の風習は之等の遺恨の結晶として現はれたものであると云はれてゐる。斯くして平地の全部は占領され數多き支那人が移住し播居したのであるから其の勢力も、偉大なものがあつた彼等の舊習は全部保有されて居り領臺當時日本軍に反抗して可なりなやまされたことは誰しも知る所である。今日何れもが支那服をまとい言語は福建其のまゝにて實に干高く僞舌にして身振手振りやしく誠に語るに堪へない、臺車の賃銀を與へれば幾度となく裏を見表をかへして遂には臺の上に投げつけて音を聞くといふ仕打は全く狡猾が養つた惡習としか見られない。

起居動作の如きもむげに卑しく始めて基隆に着した時、市中を廻つて見たが商店街の不潔と惡臭に堪へられず店頭に番をする主人主婦の多くは癢ころんで煙草をくゆらし、客を迎へるに至つては第一印象此の上もなく惡かつた、地圖を求め様として尋ねた

所「その様なものは内地人街でなければありません」といつて呉れたのは内地人である、教へられた通り行つて見ると實に蕭條たる商店街、東京、横濱のそれと異ならない、始めて先の街は本島人街であることを知つた。次に南部臺中高雄州内の本島人貴婦人は實に華美な服装はして居るが未だに以て纏足して附添に手を引かれて居り、中下層の老主婦は花恥かしい程の赤い花髪挿を前髪に押し黒紫色をしたビロー果を口にしてみしみ異臭を發しては唾をよたらに吐くに至つては一々よける程である、以上の如き風習を持つ彼等と一致して事をなすといふことは誠に事實困難があり、内地婦人としても何れも和服をすて一見して内地婦人といふことが判然としてゐる位服装も華美で殆んど官吏社員等の妻娘であるから無闇に氣位許り高く、此の地に育つた娘はこゝでは嫁に貰ひ手がないとは良く穿つた言葉で、それ程日本家庭には不向な様に育てられてゐるとは少々私共の耳の痛い話である。

さて蕃人はといふに現今は意想外な眞剣さに敬服に價するものがある。彼等の祖先は南洋より來れるパイワン族、アミ族、ヤミ族と北方より來れるタイヤル族、ブヌ族、ツォウ族等があつて前者は容貌醜、體矮小にして臺東平野に住するアミ族を除いては文化が低い、後者は大體風貌内地人に似たる所あり殊にタイヤル族の如きは内地人の子孫なりと信じ頗る特異の心情を持つものである、言語といひ蕃歌といひ吾人の耳に親しむべきものがある、家庭は嚴格なる一夫一婦制にて若し之れを破ることあらば死を以てするか或は一生を其の家に奴隸として生を終ると、一般に家族制度は崩れて居らず蕃人の特性ともいふべき彼等の仲間には嘘なし盗心なし花柳病なし

とほこることが出来る程である、全く純情であり天心其のものであることは見のがせないものがある。

嘗て昭和六年霧社に起つた事件といふはタイヤル族霧社蕃によつて内地人のみ三十六名が殺害せられたもので彼等は最も剛悍なるもので一度怒る時は想像に餘る強行を取つたもので此の事件の發端が内地人警官の不始末から起つたものとして實に汚名を残した事となつて居る。彼等蕃人が警官に馴れるにつれて其の娘に花柳病を傳播した事から起つたもので之れには蕃人も如何に激昂したか知れぬ、遂に嘗て移民支那人に彼等の祖先のなしたるが如き恨を晴らさんとしての行爲であつた。總督は此の調査の結果俄然色をなし嚴重な理蕃方針を立て警吏肅正をなし一方全力を蕃人教育に傾注することとなつたのである。以來數年にして猷身的努力が功を奏し今日の如き純然たる内地化するに至つたのである。理蕃の第一線に立つのは警官で内地の小學校員に警察權を附與された様なもので今では治安維持の必要はなく専ら教育に全力を傾けてゐる彼等は其の眞情を悟り得て欣然として修養に三昧する状態である。警官の方でも其の純情に家族を擧げて事に當り内地語は勿論普通學科は體操遊戲唱歌に至るまで兒童青年男女を教育所に集め毎日手を執り導く有様實に涙なくしては見られず技術科目に至つては先生自身頗る困難を感じざるものであるから常に講習々々で仕入をせねばならず一通りの苦心ではない。集々線の車中にて一警官と乗り合はせた挨拶をかはした言下に「講習ですか」といふと彼氏不思議さうな面持でしかもはつきりと「はあ今日は嘉義に行つて理科を受けます」と全く圖に當つて二人苦笑した、斯くて月一回數教育所より選拔で國語發表會を行ひ優秀なるものには

賞を與へ又は内地觀光の恩典を與へる等彼等男女も精勵驚くべきものがあり實に盛觀を見る。こゝ數年にして青年少女の内地語を解しないものは一人もないといふ成績を生み出した、其の上作法動作の如きに至るまで内地青年と何等選ぶ所なきまでに訓練が屆いてゐる、新高登山臺車の途中山を下る二人の青年校服を着けた若者に會ふ、臺車の前方二十米の處に立ち止り吾等の近づくを待つて擧手の禮を送られ全く意外な事に思ひながら兎に角丁寧に答禮して行き過ぎるや目送して廻れ右も嚴格に下つて行つた。

臺車を押す本島人に尋ねたが「知らぬ」といふ。翌日東甬の宿に同宿した能高郡安達署長に此の話をすると「それは蕃人青年二名でしたぞう」と向の方が良く知つて居る、署長の言によれば蕃人總ての行動は悉く手に取る如しであると二三日前頭目より二名の青年を町へ使に出すといふ届出があつた其の者ならんと聞いて實に賞讃を禁じ得なかつた、署長は欣然として現今新高山中の青年は一人なし斯かる青年を以て満たされてゐると、此の實績は諸種の會合である、先づ頭目會より、戸主會、主婦會、男女青年會と彼等の自治により年内順回的に行つて居るので訓練の徹底の如きは内地以上かも知れぬと誠に意外とも意外今更ながら「蕃人は危險ではありませんか」などの質問を發し様ものなら實に赤面して仕舞ふ程しつかりした頼もしい民族と化してしまつて居る。署長の説に依れば本島人は祖國を有して居るので教化困難であるが蕃人は祖國を有しない其の上純眞であるから導き方に依つて完全に内地化させることは易い、此の事實をつかみ得た今日では出草の如き惡風は昭和五年のバイワン族同志の間にあつたものを最後に其の跡を斷つた。首狩に依つて得た祖先

よりの鬍髯を六百何十といふものが昭和八年に全部を地下に埋葬してしまつた、之れに就ては實に涙ぐましい青年の麗話を残して居る。

青年教育の異狀な教育を見た總督府は全蕃地警官に對て青年をして首埋葬儀を促した、青年は直ちに頭目に談じたが頑として聞き入れず、再三再四青年の勸説の結果遂に青年の凱歌を聞くに至り頭目は涙を吞んで此の議を承認した。當日となつて頭目連中皆慟哭して落涙した、一つは祖先傳來の寶物に別れるの悲と又一つは埋葬後の祟りを恐れてのものであつた、併し式は滞りなく盛大に濟せた、翌年此の記念の日に招魂祭を執行した時再び頭目は泣いた。今度の涙は聖代の有難さで祟りもなく嬉しさの餘りのものであつたとのことで誠に氣持のよい話である。吾等二名と外に登山者四名は五人の強力を雇ひ山に向つたのであるが何れも從順で感動させられた事が多々あり、内二名は青年で最近の教育を受けたものでアランといひドロップといひ十八歳に十九歳純眞其のものにて愛らしく客の顔色を見て所要を客の先に辨じやうと勉める程「上着を持ちませうか」「水を汲んで來ませうか」「忘れ物を取つて來ませうか」といたはりなぐさめて呉れる。時に「君たちは蕃刀を持たぬか」といふに頭を横に振り「いらぬあちらに持つてゐる」とて最年長者を指す、見れば只一人腰間に蕃刀をひらめかす夜に入りて燈なし「闇いなあと云つたものがある」青年之れを聞いて年長者に耳打するや荷物の中から松のシデを取り出し例の蕃刀にて人數だけ見事に切り裂き火をともし一人々々に渡す、何といふ氣の効きたる所作よと數賞した程である、成る程蕃刀の如き一人持つて居れば實用に事かす他の者は必要がないのである、此の點全く内地人と變りないのである。尙蕃人青年中の優秀者は山の駐在所に雇ひ入れ警丁と稱して誠に目覺ましい活動をしてゐる、中には昇進して巡査に採用を見るものもある。



# 物語體操「金太郎」

高座郡茅ヶ崎第二小學校

小塚源一郎

入學初期の體操が、新要目の模倣體操、物語體操等によつて自然化され、生命化されて來たことは非常な革新であるが、その實施に當つては日々多くの苦心が要されることとなつて來た。わけても物語體操の教材は一層むづかしく、子供の生活と環境から教材を生命づけるもの、興味の強いしかも運動量の大きなものでありたいし、少くとも主運動の教材を含め得るものでありたい。又他教科で學んだことのあるものであれば一層意味深いものとなつてくるのであるが、こうして、いろいろと注文づけると尙更選擇と實施が億劫になり勝ちである。

元來、物語體操は第一の第二學期から適當であるとされてゐるが、私は最近「金太郎」の昔噺から取材して見た。丁度修身で「元氣よく」の例話として金太郎の元氣なことを中心に學習したあとなのでその開展を計算の意味合から敢て實施して見たのである。貧弱ながら、次にその大要を掲げて御叱正を得たい念願です。

## 第一體操指導案

一、日時 六月十四日第三校時前半

一、教材 修身科例話「金太郎」による物語體操

三、目的 修身にて學習した「元氣よく」金太郎の昔噺——を中心主題として遊戲的要求に

綱をとる形をなす。  
ハイシ ドウ ドウ ハイドウ ハイドウ  
上肢—肩下伸複合で勇ましく進む動作をなす。

## (四)主運動

1 金太郎さんは木のぼりが上手でした金太郎さんのつもりで、さあ元氣に登りませう。  
【懸垂—窓梯子のぼりを二回變化づけてなす。】

2 金太郎さんは大きな鉞で木を伐り倒しましたね。さあ鉞を横に高く振りあげて—掛聲をかけながら代りませう。  
【體側—開脚體側屈、上肢—臂側舉振の複合により、ゆつくりと大きく動作させる。】

3 又大きな木をゆり倒しましたね。どんなにやつたでせう。さあ木を抱えて—力一ぱい—ゆすりませう。  
【腹—開脚體後屈、背—體前屈の複合で、ヨイシヨイシとゆする。】

4 では木をひきぬきませう。(エツサ—と掛聲勇ましくぬく動作。それをかついで重さうに踏足歩で歩く動作)  
【平均—圓木渡り】

5 その大木を橋にして谷川を渡りました  
熊この時、先頭の者は金太郎になり徐歩で渡り、他の者は熊鹿猿兎等になつて四肢で渡ると面白い。

6 相撲がすきでしたね。誰達ととりましたか。  
【各種歩—熊の歩行】

(1) 熊はどんなに歩いて出ましたか  
【各種歩—熊の歩行】

(2) 鹿はどんなに歩いて出ましたか  
【各種歩—鹿の歩行】

(3) 猿はどんなに歩いて出ましたか  
【各種歩—猿の歩行】

還元し、元氣に愉快に運動せしめ、以つて兒童ながらの運動心を鼓舞し學習の開展をはかりたい。

## 四、時間配當

第一時 金太郎の唱歌による動作遊戲と木のぼり(懸垂登攀)

第二時 前時の教材に

(一) 金太郎が鉞で木を伐る動作(體側—體側轉上肢—臂側舉振複合)  
(二) 大木をゆり倒した動作(腹背—體前屈後屈)  
(三) 谷川の一木橋渡り(平均—圓木渡り)を加へる。

第三時 (本時扱)

前教材に熊鹿猿兎の各種歩を加ふ。

第四時 總仕上げ

## 五、本時指導過程

(一) 秩序 集合、整列(元氣にきびきびと)

開列、(臂側舉にて足踏しつ)

(二) 目的指示

今日も亦元氣に金太郎遊びをいたしませう。

(三) 誘導運動

▲金太郎の唱歌(一)を合唱しつ、軽く動作遊戲をする。

鉞かついで、【頭—頭前屈後屈、上肢—片手屈臂、下肢—舉踵の複合で鉞をかつぐ】

金太郎【足踏】

熊にまたがり、お馬のけいこ【上肢—臂下伸下肢—舉踵の複合で手綱をとる動作】

ハイシ ドウ ドウ ハイドウ ハイドウ【上肢—臂下伸で手

(4) 兎さんは

【跳躍—兩脚跳】

●この折、熊は立ち歩きの動作でなましめるも可。

## (五)整理運動

1 金太郎(二)の相撲をとる場面の唱歌を合唱しつ、軽い動作遊戲をする。

足柄山の山奥で、【上肢—臂上舉、下肢—舉踵の複合で山の形をとる】

けだもの集めて、【上肢—臂前舉で呼ぶまねをする】

相撲のけいこ【上肢—屈臂、下肢—舉踵複合でけいこの動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

ハゲツヨイ、【四肢を踏む動作】

## 高津郷土誌より

T S 生

民 謡

### 一、鮎昇唄

『鮎は瀬に住む、

蟬や木に止る、

人は情の下に住む。

オババどく、

三升樽さげて、

嫁の在所(孫抱き)に。

ア、来た、

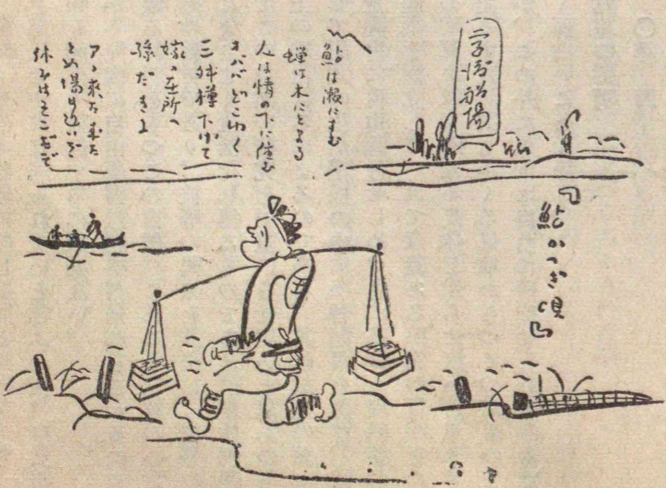
留場(渡場)は近いぞ、

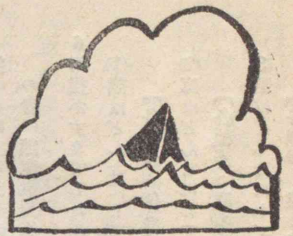
休みはそこだぞ。』

此の唄は今から四五十年前頃までは樽澤街道ならば聞くことが出来たものだ。江戸時代から明治初年にかけて未だ交通運輸機關が不備であつた頃相模川で捕れた、鮎を江戸へ持込むために鮎昇人夫と云ふのがあつた。運輸路は相模川で捕れた、鮎を厚木に集め、そこから東へ八里、溝口の宿を経て、二子の渡場から江戸へ樽澤街道を通つてしたものである。その間、途中に幾つかの留場を置いて人夫の立替を行つて運搬の敏速を計つたものである。

由來、鮎は生を尊ばれるものであるから寸刻の時をすらすら運搬する、ので鮎昇人夫の交替の敏速を計るために、鮎運搬の仕事と共に發生し共に存在したものであつた。即ち此れが運搬は主として夜を通して行はれたもので、立替にも夜の盛りに於てなすことになる。随つて夢安かなる次の人夫の眠りをさまして、出發の準備を整へさせる要があつた。そこで留場、宿場の二三町手前になると、此の唄を歌つて交替の合圖としたのである。その方法は鮎昇人夫の列の先頭の喉自慢が音頭の歌を歌へば後に續いて一團が離子を和すと云ふ工夫であつた。我が高津に於ては溝口の龜屋がその留場になつて居り、合圖の歌はネメザリ坂の上に来ると、もう歌はれたものださうである。當時此の街道の村人は、此の歌を合圖に夫々朝の準備に取りかゝつたものだ

さうだ。思へば此の歌が村の時計の代用になつてゐたなどなつかしい思出である。そこで交替すると今度は二子の渡場にさしかゝる。すると又、二三町手前から渡守を起して準備するために、又歌はれる。渡守は岸邊に船をびつたりつけて鮎昇が一目散に船中に駆込む事が出来る様に、そして一つき棒をくれ、ば、直に對岸に向へる準備を整へるとは、如何にも、鮎の生を尊ばれた所以、或は當時の商策として時を急がれたものかよく伺はれて面白いことである。かうして鮎を中心として人生生活が營まれ、その生活と共に發生存在した歌であることを思ふ時、まことになつかしきを感じず。歌詞としても人情のあたゝかみを重んじた、當時の時代意識をくむことが出来たなつかしい民謡である。





## 夏休の理科指導について

橋樹郡向丘校訓導 遠 藤 政 文

夏休——兒童の學校生活の數多い楽しみの中で、最も待ちこがれてゐるものは何としても此の夏休である。夏休は知的な作業には不適であるが、元氣な子供達は、野に山に川に海に、全く我を忘れて大自

然の懷に身も心も打ち込んで、自然と共に育ち、自然とともに伸びる時である。言ふまでもなく此の夏休が特設されたのは暑氣が烈しいためで、此の炎熱

然らば此の夏休は如何に指導すべきか。暑氣が烈しく長期間である點から考へて、當然平素の學校生活と趣をかへた別の方法をとるべきで、教授時間割と教科書から離れ、子供の力量と環境に應じた生きた實際的教育であり度いと思ふ。従つて平素學校教育に於て容易に出来る學習の方法を、子供の實情に即し、學校教育を基礎にした應用的方面、實際的方面の學習を多分にとり入れた指導をやり度いと思ふ。

自然研究こそ最適である。——かゝる見地に立脚する學習材料としては、遠足、旅行、轉地、家事の手傳、疾病治療、體質改善の健康法實施、不得意教科の學習、自由學習其の他個性環境に應じて一様でないが、殊に夏は私達の眼を自然界に轉ずると、野に山に川に海に一年中で自然物自然現象の一番豊富な時で、大人子供を問はず誰もがこの自然を離れて一日も生活せずには居られないことに思ひいたるのである。

とりわけ兒童は最も自然に接近し終日彼等を友として楽しく生活してゐる丈に、自然の事物を眞實に觀、落つてゆくつくりと考へ、心ゆく迄味ふところの理科的訓練がつんであればあるほど、彼等の眼に

映する自然界の物象は、彼等にも言へぬ妙味を與へ、何時も自然の物象に對し疑問と興味をもち、これを解決せずには居られないと言ふ心情、自然研究趣味を湧然と振起するに相違ない。

かく兒童に自由學習課題學習何れをさせるにも豊富な材料をもつこの自然、これこそ兒童の心意に最適の教材であり、彼等の興味を惹起し、彼等の生活によりよく生活化し得るものである。夏休課題としてこの自然の研究を兒童にさせ度いと思ふのも、如上の理由によるのである。其れ故此の點に着眼して兒童の生活環境の中に學習題目を選び、或は兒童各自に自由選材せしめ、之に基づく理科學習の具體案を樹立して、以て意義ある學習の實踐をなさしめ、眞に教育的なる夏休を送らせ度いと思ふ。以下記する實際案もかゝる見地からつくつたものであるが、この外に兒童に自由に研究せしめるものもなか／＼面白いことと思ふ。

### 實施の要項

#### ○尋 四

##### 一、胡瓜の研究

イ、雌花と雄花の開いてゐる日數。

ロ、果實の成長の有様を觀測寫生。

ハ、蔓の支柱に巻きつく様子。

ニ、人工受粉の實驗。

(1)、未結果實驗——雌花がまだ蕾である間に寒冷紗でつくつた袋又は金網等をかぶせて、虫の出入を絶ち其の結果を見る。(子房は果實とならぬこと。)

(2)、人工受粉——柔かい毛の筆或は羽毛等で、花粉を雌蕊の先の柱頭へうつしてやつて前の様に袋をかぶせておいて其の結果を見る。

ホ、きうりのなかまをしらべる。

##### 二、朝顔の研究

イ、一つの花の蕾から開花までの觀察。

ロ、花色しらべ。

ハ、花に集る昆虫しらべ。

ニ、莖と蕾の巻き方觀察。

ホ、葉莖花の寫生。

ヘ、人工受粉の實驗。(種は來春播種研究)

三、とんぼの研究

イ、やごからとんぼになるまでの飼育觀察(或はやごの羽化せんとしてゐるもの、採集觀察)

ロ、とんぼにはへを食へさせて、その様子を觀察する。

ハ、とんぼの子は何を食べるか。

ニ、産卵場所とその産み方觀察。

ホ、とんぼのなかまあつめ(標本作製に關し特に指導のこと。)

四、せみの研究

イ、土からはひ出すせみの子を見つけ、せみの生れ出る様子の觀察。

(1)、蛹から出る時刻

(2)、蛹から出はじめて飛び出すまでの時間

(3)、脱皮して飛び出すまでの時間

(4)、せみの寫生及せみの折紙をなし畫紙へはる。(圖畫及手工との連絡)

(5)、せみのなき方となかましらべ。(雌についてもしらべる)

(6)、せみとりの綴り方

五、お庭の植物研究(綜合的研究)

イ、似た形の葉、切れこみ、すぢなどについての採集。

ロ、似た形の花あつめ。

ハ、まつばたん、すべりひゆ、やぐるまぎく等の花、特にをしへの觀察。

まつばたんとすべりひゆのをしへの指先或は棒の先で刺激を與へると、與へた方向へグーツと動いて來て橙黄色の花粉がつく。やぐるまぎくのをしへのさきに同様の刺激を與へると、ブツと花粉を噴き出す。兒童は自然の微妙なるこの構造にむねうたれると思ふ。

ニ、莖の巻き方觀察。

朝顔、藤、きうり、ぶどう、やまのいも、えどと

ころ、へちま、やぶがらし等自分の庭或は庭の近くの蔓性植物の莖、まきひげ等の巻き方葉のつき方の觀察研究。

ホ、葉のならば方觀察。

四季緑の手をひろげて玄關先等で我を迎ふる「八

つ手」の葉を見ると、その葉柄の伸縮によつて全葉が日光によく當る様になつてゐる。たうもろこしを一本植にして觀察すると、すべての葉が南面し、きうりの葉の南面、蔓性植物の葉が他植物の表面を被ふてゐる様子等を觀察させると植物が日光なくては成長がでないことがわかる。これら、葉のならば方について兒童にしらべさせる。

○尋 五

##### 一、稻の研究

イ、何時頃田植をしたか、又その一本が何本となるかを觀察する。

ロ、田の草取とそのわけ。

ハ、すゐむし、うんか等の害虫採集並に研究。

ニ、何時頃穂が出はじめたか。

ホ、毎日田廻はりをして世話をよくする。

二、蚊の研究

イ、卵をみつけてその數をしらべる。

ロ、コップにその卵を入れて蚊の發育史をしらべる

(1)、蚊の卵は産卵後幾日で幼虫

(2)、幼虫期間はいく日か

(3)、蛹期間はいく日か

(4)、ぼうふり及び丸ぼうふり(蛹)の習性觀察

ハ、五月一日に一匹の蚊が現はれて三百個の卵を産み、それから十五日の後に百五十匹の雌の蚊が発現すると假定して、八月末にはいく匹となるか。

ニ、蚊の口をよくしらべる。

ホ、コップへぼうふりをとり、この水の上に石油を流して其の結果を觀察。

三、食鹽の結晶をつくることの實驗

イ、食鹽の泡和溶液を茶碗へつくり、その上澄液を小皿にそゞぎ、之を室内に放置して自然蒸發をせしめる。

ロ、皿の食鹽水の深さ並に乾き上るまでの日數をしらべる。

ハ、結晶の寫生。

四、日出、日入の時刻及びその方角、棒の影の長さの研究。

イ、八月一日、十日、二十日、三十日頃の四回測定

ロ、棒の長さの測定は正午とし、その長さを棒ゲラフで現はす。

五、水中生物の綜合的研究。

イ、水田或は池で水中小動物(げんごらう、みづすまし、がむし、たがめ、たいこうち、みづかまきり、こおひむし、まつもむし、あめんぼう)等の觀察。

ロ、稻の害虫益虫の研究。

ハ、へびの習性観察、特にかへるのみ方観察とその  
の寫生。  
ニ、かへるの生活観察。  
ホ、水中植物の（ふさも、うきくさ、あかうきくさ  
さんせうも、でんじさう）形態生態の観察と標  
本作製。  
ヘ、以上相互の有機的關係の考察。

○尋 六

- 一、種子の發芽研究。
  - イ、大豆、そらまめ、いんげん豆、あさがほ、松、
  - 稻、麥等の發芽狀況の觀察。
  - ロ、發芽に必要な養分はどこから送られるか。
  - ハ、發芽を促進せしめる條件。
  - ニ、かたつむりの研究。
  - イ、どんな場所に多くゐるか。
  - ロ、かたつむりを硝子板の上にのせ、その運動の有
  - 様を觀察する。
  - ハ、かたつむりの歩いた後の觀察。
  - ニ、穀の巻き方及び模様を澤山のかたつむりにつ
  - て觀察。
- 三、池沼水田の生物研究。
  - イ、水面生物——あかうきくさ、うきくさ、さんせ
  - うも、でんじさう、みづすまし、あめんぼ等に
  - ついでの觀察及び採集。
  - ロ、水中生物——ふさも、きんぎよも、えびも、さ
  - さばも、せきしやうも、がむし、げんごらう、
  - まつもむし、たいこうち、かへる、おもり、や
  - ご、しじみ、どぶがひ、たにし、魚類等の採集
  - 觀察。
- 四、私の畑の雜草採集。
- 五、馬鈴薯から澱粉製造。

○高一

- 一、昆虫採集
  - イ、蝶蛾の類（鱗粉寫真標本）とんぼ類、せみ及び
  - 甲虫類等の採集。
  - ロ、夜燈火へとんで来る昆虫の採集。
  - ハ、月見草（まつよひぐさ）に集る昆虫採集。
  - ニ、水面及び水中生活をする昆虫の採集。
  - ホ、草地、河原等に生活する昆虫採集。
- 二、植物採集
  - イ、庭の植物の採集。
  - ロ、路傍及び畑の植物の採集。
  - ハ、水田植物の採集。
  - ニ、裏の山の植物採集。
- 三、コンクリート工作（男）
  - イ、セメントはどんな性質があるか。
  - ロ、セメントはどんな方面につかはれてゐるか。此
  - の村ではどうか。
  - ハ、セメントの使ひ方研究、及びその實際。
  - ニ、何からつくるか。
- 四、お勝手の研究。
  - イ、上手な火のおこし方及び消し方研究。
  - ロ、煮物の仕方の研究。
  - ハ、食物の腐敗を防ぐ方法の研究。
  - ニ、お勝手道具の研究。
- ホ、野菜類魚類の研究。
  - イ、米麥の産地及び質の研究。
  - ト、蠅退治、蚊、のみの全滅策の研究。
- 五、水泳の研究。
  - イ、上手なおよぎ方の研究。
  - ロ、泳ぎ方の種類の研究。
  - ハ、上手に泳げる理由の研究。

○高一

- 一、毎日の氣温、氣象の繼續的觀測記錄
    - イ、毎日「溫濕度計及び天候」の觀測をなし、その
    - 様子をグラフ的に記錄。
    - ロ、「素人の天氣觀測」左の事項についての實驗的觀
    - 測。
  - (1)、夕日の西空が灰色かトビ色の時は翌日は雨。
  - (2)、朝空に低く雲が見えて、その上に赤い太陽が出たら
  - その日は雨。
  - (3)、日和つゞきの後で太陽にかきがくつたらあらしが
  - 近い。
  - (4)、太陽の周囲の白い光が小さかつたら雨、大きかつた
  - ら晴天。
  - (5)、空の快明と星の異つたかじやきも雨の前兆。
  - (6)、霧は天氣の定まつたしらせ。
  - (7)、青空が深く、少し白むときはあらしの前兆。
- 二、植物採集
  - イ、一般植物の採集。
  - ロ、藥用植物の採集。
  - ハ、有毒植物の採集。
- 三、星座の研究
  - イ、星圖によつて近所の友人と、星の位置及び名稱
  - の主なるものについての觀測。
  - ロ、八月の月始めの夜八時頃の主なる星座は琴座、
  - 白鳥座、鷲座等である。よく觀測すると同時に
  - 夫等星座に對する神話傳説の研究。
- ハ、八月の星圖印刷配布。
- 四、家事に關する研究
  - イ、廢物利用の研究。
  - ロ、私の家の無駄しらせ。
  - ハ、飲炊きの時間と水加減の研究。
  - ニ、食品の營養價の研究。

ホ、お勝手の改良案、自分の家のお勝手に就て使ひ  
易くする爲の工夫、衛生上から見ての改良し度  
い點等についての考察。  
ヘ、食物の保存法の研究。  
ト、水質検査。  
チ、蠅退治、蚊、のみの驅除法の研究。

五、簡單に出来る化粧品製造實驗  
イ、胡瓜化粧水のつくり方、

- (1)、材料、胡瓜の頭のながくて捨てる部分、やく  
づを瀬戸の卸しですり、心の軟かいところはそのま  
ゝ一緒にして、ふきんにつくんでしぼり、胡瓜水をつ  
くる。この胡瓜水百瓦、硼砂二瓦、リスリン四瓦  
アルコール十瓦、ローズ油少量、炭酸マグネシヤ二  
瓦を材料として整へる。
- (2)、つくり方、胡瓜水を瀬戸ひき鍋に入れて煮立  
て、煮立つたら火から下し、硼砂を加へてとかす。  
別にアルコールにローズ油を加へ、更にリスリンを  
加へてよく振り動かしてまぜる。胡瓜水が冷へたら  
このアルコールにローズ油を加へ、更にリスリンを  
加へてよく振り動かしてまぜたもの、その他の混合  
液を加へ、更に炭酸マグネシヤを加へてよくかき廻  
す。これを最後に濾紙でこすとても美しい胡瓜化粧  
水が出来る。
- (3)、どこへつかうか。
- ロ、あせしらすの作り方。

- (1)、材料、亜鉛華五十瓦、タルク末五十瓦、コー  
ンスターチ五十瓦、人石麝香一瓦、
- (2)、作り方、亜鉛華、タルク末、コーンスターチ  
を各別々に篩にかけてふるふ。よくふるつたら三つ  
をいっしょにし、更に其の上に人造麝香を加へ、再  
び篩にかけてよくふるふ。二三邊これをくりかへし

てよくまじらせると、立派なあせしらすが出来、  
これをよく密閉出来る。罐へ入れて蓄へておく。

(3)、どんな時につかうか。

以上各學年に亘つて五項目づゝあげて見たが、勿  
論各地方によつて特殊性があるのでそれを考慮して  
課題すべきである。例へば海岸地方で海藻貝類の採  
集、養蠶地方で蠶の飼育をせしむるも面白いこと  
と思ふ。こゝに記載せるも全部兒童にやらせると云ふ  
わけではなく、兒童の性能によつてはその中の二三點  
を選んで研究しても結構である。尙此の外に兒童が  
自由に選題して自由に研究する様には是非さ度い  
と思ふ。

次にこゝに附記しておき度いと思ふことは、植物  
及び昆虫の採集を各學年に課しておいたので、その  
標本のつくり方についてである。

標本の製作

一、割葉の作り方

植物の研究は野外で採集し、觀察すると同時に標  
本をつくることにあつてと思ふ。標本をつくることは  
野外研究の備忘であり、又備忘のために標本をつく  
るのであるから、その標本は必ず完全なるものをつ  
くらせることを本態とせねばならない。その採集に  
當つては先づ以て丹念に觀察することが大切であ  
る。充分觀察したら出来る丈完全體として採集する  
ことである。兒童はとかく部分的に其の植物のほん  
の一部を採集し勝であるので、此の點に特に注意さ  
せて、根、莖、葉花全部を備へてゐるものを採集せ  
しめ度いと思ふ。然し樹木になると完全體としての  
採集が困難であるので、かゝるものは、葉花果實な  
ど夫々完全なものを選んで折らせ、標本をつくらせ  
度いと思ふ。こゝに割葉の作り方の大體を記すると

次の如くである。

- イ、一番下に新聞紙四つ折よりやゝ大きく厚さ二種  
位の板を敷く（直接床板にする可）
- ロ、その上に新聞紙四つ折のものを一枚重ね、これ  
に標本にする植物をのせ、更に吸水用の新聞紙  
四つ折のものを重ねる。
- ハ、更に標本を重ねる。
- ニ、新聞紙を重ねる。

ホ、かく繰返し最後に吸水用の新聞紙の上に壓板を  
重ねて上から重しをする。

ヘ、かくして一日おくと新聞紙は水分を吸つて非常  
に濕るから之を乾いた別のものと取かへ、前と  
同様に重しをおく。

ト、毎日この作業をくりかへし二週間位したら、二  
日毎位に紙をとりかへすつかり乾燥したものを  
書用紙或は模造紙の厚いもの八つ切りにしたも  
のを臺紙（臺紙として出来たものにするもよ  
い。）として之に貼り付ける。

チ、臺紙に貼る時の糊代は薄手の模造紙に濃いアラ  
ビヤゴムを塗つたものを豫めつくつておき、適  
當に切つて用ひる。やむを得なければ大和糊で  
もよい。たゞ注意すべきは、標本を直接糊では  
りつけることは禁物である。

リ、臺紙の一隅に採集地、採集者採集年月日、植物  
名、備考等の欄をもつ名札に記入したものをつ  
つておく。

二、昆虫標本の作り方

昆虫の採集のために野外に出るは望ましいことで  
大いにこれが採集をさせ度いのであるが、この採集  
中にもたゞ集めると云ふ丈でなく生態方面の觀察を  
重んじ度いと思ふ。たゞ昆虫と言つてもその種類は

種々あつて、その生活様式も多様である。たゞ飛ぶ方について見ても、粉蝶科、鳳蝶科、蛱蝶科、蛇目蝶科丈についても夫々特色がある。花に集る蝶蜂といつても亦同様であり、その止り方に於てすら夫々異つてゐる。昆虫は常に食物を求めて行動する。その食物にも特色があるので、この點に留意して採集をすることは極めて面白いと思ふ。か様に生態觀察に留意する昆虫の採集をせしめ度いと思ふ。かくして得たものゝ標本の作製についてその方法の大要を記して見ることにする。

イ、採集した昆虫を殺すには、青酸加里を入れた毒壺へ入れる。これがない時は熱湯の中へ入れて殺す。

只、鱗翅類の標本作製には、翅が硬くならない中に展翹板にかけて翅の位置を直す。又鱗粉轉寫法によつて標本をつくるもよい。

ハ、虫の體が硬くなつて思ふ通りの形にならない時は、水に潤した糠屑を密閉した箱の底に敷きつめ、その中に昆虫を保つて軟かくする。但し此の際は腐敗を防ぐために石炭酸を少し滴しておく。此の方法によると一週間位かゝるが、急を要する場合は藥罐に湯を沸かして口から出る蒸氣で翅の着根を蒸す。

ニ、甲虫を針でとめるには、右の翅鞘上で前胸部に接近した所にさし、二枚の翅鞘の間へは決してささない。

ホ、小形の虫は針で留められないから、名刺用の粘着臺紙の先端にタラカンドゴムを塗つて虫の頭部が紙の外に出る様にはりつける。

へ、標本を保存するには箱の中に防腐劑を入れる。それには粉末ナフタリンが最適である。萬一害

虫が発生したら二硫化炭素を盆に入れて置く箱の中に入れておくと害虫が死ぬ。

ト、液浸標本を作るには、最初三十度位な弱いアルコールから順次に強いアルコールに移し、七十度位のものゝ中に入れて保存する。フォルマリンを使用する時は二十倍位にうすめる。フォルマリンはアルコールに比べると體内に浸入することが非常に遅いから最初アルコールに暫時浸してからフォルマリンに移すとよい。

以上植物及び昆虫の標本作製の方法について記して見たのであるが、兩者を通して兒童に特に注意しておき度いことは、數よりもよき標本の作製である。完成した標本を見て愉悅を味ふことの出来る様なものをつくり上げさせる點である。最後に兒童の研究結果の後始末を如何にしたらよいか。これについて述べて筆を擱き度いと思ふ。

研究結果の整理　一ヶ月の長い休暇、この間兒童が有目的計画的に實際に研究した丈でも非常なる効果があるが、更に此の尊き兒童の研究結果の適當なる處理こそ一層とこれを意味づける。こゝにその方法の概略を述べて見よう。

一、研究物の展覧會

九月の新學期に提出した研究物を、二週間餘裕をおいてそれまでに採集物の不明なものは圖鑑によつて兒童自身或は兒童相互で研究して名前をつけさせて最後に教師が訂正してやつて全部正しい名前をつける。其他の研究物も夫々檢閲してそれがすんだ後各學級では教科研究主任へ報告し、之を展覽會場へ運ぶ。

かく夏季研究物展覽會をすることによつて兒童に大きな刺激を與へる。

兒童を通しての

家庭教育

家庭連絡の一方便

伊東覺念

本誌前號即第八十七號に記載されました千箇寺除の昔がたりの珍談は或る時の父兄母姉會に於て私が化學實驗の際醫師が貧血症の子供に血液を増さしめるに鐵劑を與ふる時張藥後直ぐに茶を吞ますなど注意されますが、之はどういふ譯かと云ふに一體二種以上の藥品を調合すると藥によつては化學的作用を起して藥の効能を失ひ又は毒になるものもあるといふ事を話して其の實驗に鐵劑中に煎じた茶を入れて黒色に變化するのを觀察させ、其理由は鐵劑の中に茶を入れると鐵劑中の鐵と茶の中のタンニンと化合して黒色に變じて別の性質になつて仕舞つて藥の効能を失ふと云ふ事を説明して其の序に昔の女子はお嫁に行くとき眉毛を剃り落して齒を黒く染める習慣になつて居たのだが田舎では其の齒を黒く染めるのに「お齒黒五倍子」と云つて、「かつの木」の葉に虫が卵を産み附けた虫嬰を乾かして粉にした物、又古釘を水につけて置いた水酸化鐵の水でお齒黒ぶしの粉を附けて眞黒に染めるのですから、茶を煎じて口の中に含めばお齒黒の中の鐵と茶の中のタンニンと化合して黒色のタンニン化鐵に變化するのである事を話して置いた事が實現して、數十圓のお蠟代を納めず済んだ譯であります。

斯かる事を直ちに迷信して詐欺的行爲にかゝる事は如何にも愚の至りであると冷笑されるかも知れま

二、理科研究發表會  
この會は全校兒童集合のもとに行ふ。各學級から

選出された發表者が全校兒童の前で發表する。

三、製作物の保存

兒童が採集した標本の中特に優秀なるものは學校の標本として保存する。其の他教授資料として價值あるものも同様に保存する。又兒童にも自分の尊い研究物を永く保存する様にとめさせる。

以上拙いものであるが、郷土向丘を中心として書いて見た。大方の御指導を賜はり度いと思ふ。

書方、唱歌、行進遊戲、講習會

(女子師範學校主催)

(武相教育第八十七號參照)

廿三日	廿二日	廿一日	二十日	日 時
鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木	鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木	井上 井上 井上 井上 井上	井上 井上 井上 井上 井上	9—8
				10—9
				11—10
				12—11
食 晝				1—12
堀川 堀川 堀川 堀川 堀川	堀川 堀川 堀川 堀川 堀川	堀川 堀川 堀川 堀川 堀川	堀川 堀川 堀川 堀川 堀川	2—1
				3—2
				4—3

注意

□書方用意として尋五書方手本(上)及び墨・筆・硯・半紙・下敷・文鎮等を用意下さい。

紙・下敷・文鎮等を用意下さい。

□唱歌用意として、文部省新訂小學唱歌、尋三・高一・

□宿泊は實費を頂戴いたします

教員共済會だより

資 産 (昭和十二、六、三〇現在)

計金貳拾壹萬八千參百六拾八圓參拾五錢	一金貳千圓	一金九百四拾圓拾六錢	一金九百九拾六圓參拾貳錢	一金千八百四拾參圓四拾貳錢	一金拾圓	一金參萬壹千七百七拾六圓八拾參錢	一金貳萬四千五百拾圓六拾貳錢	一金九萬貳千圓	一金五萬八千五百圓
信託預金	定期預金	特別當座預金	當座預金	振替貯金基本預金	振替貯金	國貨附金	國貨附金	農工債	農工債

診療手当支給調  
(六月中支給)

金	四、五〇	一、五〇	二、〇〇	九、五〇	五、五〇	五、五〇	一、五〇	一、五〇	二、四〇	五、五〇	五、五〇	八、〇〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	二、七五	一、五〇	三、五〇	五、〇〇		
額	郡市	川崎	同	都筑	高座	横須賀	高座	足柄下	三浦	横濱	足柄上	横須賀	川崎	津久井	横濱	同	神奈川縣	鎌倉	同		
氏名	西村トミ子	棚倉ことゑ	持田登	小川敏良	金井治良	増田カヨ	新比叡淳司	村越正勝	家田ミサホ	高田章二	高橋妙瑛	松本アイ	飯田ヤスチヌ	落合類造	仁科常吉	渡部豊吉	長島益	望月市良左衛門	野橋ミヨシ	谷博司	杉村かめ子
學校	高津	同	中原	新田磯郷	浦和	大和	足柄	逗子	杉田	井口	横須賀高女	波田	鳥屋	西戸	同	石川	師範學	小坂範	渡村	川村	足柄上



佇立すること数分間に玉垣内を退き外玉垣前に於て外宮の各殿構造御祭神についての説明を聴く、

○御正殿 御祭神は豊受大神神であらせられ、相殿神は瓊々杵尊、天兒屋根命、太玉命

構造は唯一神明造堂宇と申す純日本風の最古様式の御建物で、御屋根には九本の榎木と東西兩端の外削の干木とが高く聳えて居る。

○四丈殿 外玉垣内中重島居の東方にある御殿で、兩儀中重の行事や官幣の點検を行ふ所。

○外幣殿 板垣内西北の隅の御殿で、古神寶の類を納め奉る。

○御饌殿 板垣内東北隅に在り神明造并樓組の御殿で日別朝夕の大御饌を、天照大神に供へ奉り併せて豊受大神始め相殿神へも供へ奉る。

これより外宮の別宮であらせられ「多賀宮」「土宮」「風宮」に参拝し現地に於て説明を聴く。

○多賀宮 豊受大神第一の別宮で豊受大神の荒御魂を奉る。この別宮に限り恒例臨時の諸祭典みな本宮に續いて行はれ勅使参向奉幣の御儀がある。

○土の宮 御祭神は大土乃御祖神で外宮々域並に山田原の御地主神であらせられ。

○風の宮 御祭神は級長津彦命、級長戸邊命、弘安四年蒙古軍來寇の時御神威を顯はされたので伏見天皇正應六年三月宮號を奉られて別宮に列せらる。

別宮の参拝を終り、朝御饌祭参進の御模様に参りて正殿の東北忌火屋殿前の参道にて暫時休憩す。齋戒沐浴せる神官が忌火屋殿内に於て朝の御饌を御調理申上げ居らるゝ様子がうかがはれた。調理された御饌を櫃に納められて正八時權綱宜を先頭に警蹕の聲も厳めしく正殿板垣北御門に向つて参進せらるゝ御模様に参り、此の御門より御饌殿に御進みになり朝夕二度供へ奉り、皇室國家萬民の隆昌安泰をお祈り下さるとの御話を聞いた時には有り難き至りけり。

なまで胸一ぱいでした。

○忌火屋殿、御酒殿 忌火屋殿は神官が齋戒沐浴して櫓の柄と山杭

把の心木で續り出した忌火を以て日別朝夕並諸祭典の大御饌を調理し奉る所である。調理に用ふる御水は高天原傳來の神水に移したといふ忍穂井から汲み取り御米は神宮神田で收穫し、蔬菜果實は神宮御園で栽培したものである。

御酒殿は御酒殿神、調御倉神、御饌神の三神を合祀奉る。

これより一同はバスに乗り、途中、豊受大神宮の別宮であらせられる「月夜見宮」を参拝し内宮に向つた。

○内宮参拝

午前九時宇治橋前にてバスより下車し五十鈴川に架せられた宇治橋を渡り神苑に入る。掃き清められた玉砂利の参道左右には枝ぶりのよい稚松が緑蔭を展べたやうな芝生の間に點綴し後方路山の茂つた杜は霧に包まれ、清涼の氣身に通つて我に塵世を遠くはなれ別世界にある感じがされた。大鳥居前にて禮拜し、手水舎にて身を淨め、静肅な氣持にて進行す、老柏古樹森然として天を衝き蒼蒼の趣意の氣身に通る、二ノ鳥居をくぐり御垣の西南角に於て正式参拝の手續をなし、神宮の案内により外宮にてなせし如く内玉垣中重島居まで進行し再拜拍手只管皇室の彌榮、皇運隆昌とを祈願すれば森々たる木立に風靜かに渡りて神降りますかと思はれ、清淨無垢なる白木造に一點の塵もなく木の間より洩れ来る梅雨の日の御影の嚴かなるを仰いでは何事のおはしますかかしらねども余けなきに涙のはより落つるを禁じ得なかつた。

神前を退き外玉垣の下にて矢野神官の説話を聴く。

○皇大神宮御正殿 御祭神は皇祖天照皇大神並に相殿神として天手力男命、萬幡豊秋津姫命を奉る御構造は外宮と同じく唯一神造堂宇といふ純

日本風の最古様式であります、御屋根には十本の榎木輝き、内削の干木高く聳えて正南面して御鎮座あらせらる。

○古殿地 東の御敷地は外宮と同じく只今は古殿地となつて居ります坪数は二千二百二十二坪であります。

○御饌調合 御本宮の石階の真下参道の右傍にある建物で、その南の石積を豊受大神の御座とし、御祭典時は特に豊受大神神を此處に御迎へ申上げて御饌を調理する神事が行はれる。

域内の別宮「荒祭宮」「風日祈宮」に参拝。

○荒祭宮 本宮の後方に御鎮座あらせられる皇大神宮第一の別宮で皇大神の荒御魂を奉る。恒例臨時の諸祭典みな本宮に續いて行はれ勅使参向奉幣の御儀がある。又五月、十月兩度の神御衣祭には本宮と當宮とに限りて神御衣奉納の御儀が行はれる。

○風日祈宮 外宮の風宮と同様に御祭神は級長津彦命、級長戸邊命を奉る。

別宮二宮の参拝を了つて大庭敷與所來賓室にて暫時休憩す此間に神部部長御清白氏より「一般國民の奉養に關する最近の模様」並に田中神樂部長より「御神樂奉養に關する注意」等につき御話あつた後神樂殿に至り御神樂を奉養して退出す。

神樂殿を出て行在所及齋館を拜観す。

○行在所 檢造の建物で聖上御親臨の際御用に充て奉る所である。

○齋館 平素は宿衛奉仕の神官が参籠し祭典の際は祭主の宮以下奉仕員一同が参籠齋戒する所である。

内宮神域を退出し又もバスに乗りて表参道伊勢離宮御敷地の少し南平から東に入り内宮であらせられる「月讀荒御魂宮」「月讀宮」「伊佐奈岐宮」「伊佐奈隅宮」を参拝し東から順に南面して御鎮座になつて居られるこの四宮について

の御祭神並に御構造について説話を聴き、それより神宮文庫を拜観し、皇學館に着いたのは午後零時十分頃でした。

皇學館食堂二階で畫食をなす。

○神宮文庫 和漢洋約十一萬冊を有する神宮司廳經營の圖書館であつて、藏書の主要なものは、舊林

崎、宮崎兩文庫、内宮文庫、外宮文庫、内外兩宮子良館の圖書、記録類で、その他にも貴重なる古書類が頗る多い。

○神宮皇學館 神宮司廳の經營、明治十五年神宮祭主朝彦親王の令旨によつて創立せられた、官立高等專門學校である。

畫食後は休憩する間もなく、皇學館教室に於て講話を聴く

○儀式課長神宮副官坂本廣太郎氏

1、神宮参拝と神宮崇敬について

2、皇祖天照大神と相殿神について

3、相殿神と日本國民性について

4、乃木大將夫妻の神宮参拝について

○神宮皇學館教授木村泰太郎氏

1、神宮御鎮座の由來

2、神宮と國民との交渉

約一時間半に亘る熱烈な講演であつた。講演の終了は午後二時十分で、再びバスに乗つて「倭姬宮」に至り参拝した。

○倭姬宮 祭神倭姬命は垂仁天皇の皇女であらせられ、天照大神の御杖代として諸國を御巡幸の後

五十鈴の川上に萬代不易の大宮を御創立になつた御方であらせられ、大正十二年皇大神宮別宮として鎮座せらる。

倭姬宮を参拝した際、内務省主催の全國神職講習會員を野上講師引率して参拝して居られたので次の「神宮徴古館」「農業館」の参観と共にする様御願ひして、兩館を觀覽した。幸いにも野上講師が講習員に對し陳列されてある品々貴重なる参考となるべきものについて一々説明して居られるのを聴くことが出来たのは一層印象を強くした。

○神宮徴古館、農業館

建物は煉瓦及花崗石造ルネサンス式建築で庭園は洋和風の二式から成り、神宮司廳の管理に屬す。徴古館は神宮撤下御裝束神寶を始め神宮に縁由する古器文獻並我國史文物の沿革を徴すべき資料約四千點を陳列す。

農業館は農産、林産、水産、牧畜、養蠶等我國産業の發達變遷並現狀を概観するに足るべき資料約八千五百點を陳列す。

拜観後は農業館内映寫室で神宮關係の活動寫眞(聖上陛下神宮御親臨狀況、神嘗祭の狀況)を觀覽することが出来て昨夜來各講師から謹聴した神宮内祭祀の一斑を目のあたり見る如き感じがされ、自分達も此の神域内で此の祭祀を實際拜観して居る様に思はれ一層有り難さが身に浸み渡つた。此の感激を以つて此の講習會の行事を終了することが出来たのはまことに有り難い次第であります。

昨夜來盛澤山な行事を張り切つた氣持で滞りなく終了して宿舎に歸つたのは午後五時頃でした。一同は綿の如くに疲れ果てた身體を早速浴場に運び汗と汚れと疲れとを洗ひ淨め晴々として午後六時夕食を共にして解散した。

今回この有意義なる講習會を開催するに當つては神宮神部諸との交渉、行事日程の計劃、宿舎等の御世話並に始めから最後まで御案内と御指導賜はつた、箱根神社宮司平塚道男氏並神宮神部補矢野永治氏に對し衷心感謝の意を表する次第であります。

八月號は休刊いたします。

夏期講習會

我が初等教育研究會は、毎年夏季並びに冬季の休業を活用して、講習會を開催してゐますが、本年は左記の通り、小田原・高松・京城の三ヶ所に講師を派遣して夏季講習會を開催することになりました。例年の通り、多數御參會を希望致します。

共同主催 (初等教育研究會 神奈川縣足柄下郡教育會 自八月九日 四日間 至八月十二日)

會 期 神奈川縣小田原第一小學校講堂 (小田原下車)

日 程		日 時	8	9	10	11	12
九日	佐佐木	同上	同上	同上	同上	武井	
十日	武井	同上	飯田	同上	同上	同上	
十一日	飯田	同上	中島	同上	同上	同上	
十二日	熊井	同上	同上	同上	同上	同上	

教育課程の問題

算術教育の諸問題

綴方教育の本義と實際指導

體操科新要目實施上の諸注意

修身教育の日本的實踐

會 費 金壹圓(郡教育會員以外の申込者)

申込方法 郵券三錢をなへて左記宛所へ

申込宛所 神奈川縣足柄下郡足柄下小學校内教育會事務

申込期限

八月七日

○見學遊覽

會期中二宮尊徳先生遺蹟、大岡一夜城、石橋山古戰場、箱根一周に御案内



# 翔れ……自由畫當選者發表……大空

北支事變を契機に大空への國民的關心が百八十度の急轉廻振で注がれた！ ネキスト・デナレーションを制覇する機械文明は正に大空を奔ぼうに翔ける飛行機だ、この大空飛躍時代の先鞭を打つて帝國飛行協會並に報知新聞社共催の下に廣く全國小學兒童から航空自由畫を募集した、縣下三百十校の小學兒童もこの有意義な企てに勇躍参加し六月末の締切までには實に五千五百點の力作が報知新聞横濱支局に届けられた、一枚一枚が立派な作品ばかりだ。これが審査は去る七月廿四日縣廳二階會議室で行はれた、審査員の顔觸は畫伯飯田九一氏、同牛田鶴村氏、縣立第一中學校教諭島羽宗雄氏、縣視學官徳永新太郎氏、師範學校教諭川口徳男氏、横濱六浦莊訓導稲木時次郎氏で本縣畫界をすぐつた堂々たるものである審査は七時間餘に亘り熱心に行はれた、最初五千枚中から三百枚優秀な繪が選拔され第二次審査で百枚に減され、最後に廿枚がこのうちから選ばれた、全く傑作揃だ、素的な作品ばかりである、更にこの二十枚から一、二、三、等が左の如く決せられた、これぞ誇れる本縣の代表作だ、直に三等までの作品を帝國飛行協會に發送更に全國各地からの傑作に伍して審査される、なほ縣學務部、報知新聞、帝國飛行協會神奈川地方本部が共同主催で五千五百枚のうち特に優秀なる作品五百枚を九日から十五日まで横濱松屋百貨店に陳列展覽會を開催する、兒童自由畫の

新機軸を表した作品が非常に多く參考になるところがあると思ひますから是非御觀覽下さい。

▲一等賞 鎌倉郡鎌倉第二小學校 尋常四年生 村田 明子

▲二等賞 平塚市平塚第一小學校 尋常一年生 長谷川 楓

▲三等賞 下郡小田原第二小學校 尋常三年生 湯川 玲子

▲選外佳作(廿名) 順序不同

橋樹郡向丘尋高一年碓井照子、横濱市磯子小學校二年村山健治、鎌倉郡戸塚尋高四年鈴木淑子、小田原第二尋高二年鈴木靜江、平塚第一尋三年長田定子、足柄下郡下會我尋高磯崎ヒロ子、川崎尋高六年吉田壽江、横濱市平樂尋高高新井正一、橋樹郡稻田尋高二年小林千高、横濱市平樂尋高二年田中宏、戸塚郡稻田第二尋二田村秀夫、同校尋三井上欽也、横濱老松校尋一川喜田昭雄、同校尋一山内康、平沼尋四金子延子、同校四年高石孝子、同校四年白木清茂同校六年清水惠美子

## 編輯後記

今月號はなるべく涼しうな記事を登載するの豫定で、さうした御投稿もかなり澤山あつたが、灼熱の北支で暴戻な支那軍脅威の爲奮闘して居らるゝ皇軍將士の勞苦を思ふと、そんなことを考へるさへも申譯ないことなので止めた。

實業家小林氏の講演筆記は必讀の大文字、齋藤氏の御感想は恐らく讀者諸君も御同感と存じます、兎に角本誌を通して農山村實狀の認識を一般に深めて行かゝるゝ事は悦びに堪えない、八月號は休刊いたしますが、九月號からは新進氣鋭の新手により面目を改めてお目見得することゝ存じます。

折から窓外には新聞號外の鈴の音、けたましまし鳴り響き本町通の高樓にこだまして居る、北支の戰雲愈々急を告げ時局は全く最後の竿頭に達した、國民は上下一致銃後の護を堅くし舉國一體皇軍の健闘を祈つて居る、やがて旭光燦として東亞の山河を照し戰雲一掃北支の地に花咲く春を迎ふるも近きにあらう

昭和十二年七月二十八日印刷  
昭和十二年七月二十八日發行

神奈川縣教育會代表者

櫻井 諭

印刷人 鈴木 清五

印刷所 横濱 活版 合

發行所 神奈川縣教育會

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可  
昭和十二年七月廿八日發行(毎月廿五日發行) 第八十八號